神奈川県海老名市

国分尼寺北方遺跡発掘調査報告書

こくぶあまでらほっぽういせき

― 第49・58次調査 ―

2023

海老名市教育委員会

例　言

1．本書は、神奈川県海老名市国分北一丁目2977番３に所在する国分尼寺北方遺跡（海老名市№35遺跡）第49次調査及び海老名市上今泉三丁目1182番27に所在する国分尼寺北方遺跡（海老名市№35遺跡）第58次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、個人住宅の建設に伴う事前の記録保存調査として、海老名市教育委員会が実施した。

3．現地調査及び出土品等整理作業は平成26年度及び令和２年度に「国宝重要文化財等保存整備費補助金」及び「神奈川県市町村事業推進交付金」を受け、発掘調査報告書刊行にあたっては令和４年度に「国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金」及び神奈川県の「指定文化財保存修理等補助金」を受けて実施した。

4．発掘作業から報告書刊行までの期間及び出土品等整理作業場所は次のとおりである。

（１）第49次調査

発掘調査期間	平成26年７月２日～平成26年７月９日
出土品等整理作業期間	平成26年７月10日～平成27年３月31日、 令和３年10月１日～令和５年１月31日 （遺物洗浄及び注記、分類、図面整理） 令和４年８月１日から令和４年11月30日 （遺物実測、観察表作成、写真撮影等出土品整理作業委託）
報告書刊行期間	令和５年１月25日から令和５年３月24日
出土品等整理作業場所	海老名市教育委員会事務室（神奈川県海老名市中新田377） 有限会社アルケーリサーチ（東京都板橋区中台１-47-３）

（２）第58次調査

発掘作業期間	令和３年４月23日～令和３年５月26日
出土品等整理作業期間	令和３年６月１日～令和５年１月31日 （遺物洗浄及び注記、分類、接合、図面整理） 令和４年８月１日から令和４年11月30日 （遺物実測、観察表作成、写真撮影等出土品整理作業委託）
報告書刊行期間	令和５年１月25日から令和５年３月24日
出土品等整理作業場所	海老名市教育委員会事務室（神奈川県海老名市中新田377） 有限会社アルケーリサーチ（東京都板橋区中台1-47-3）

5．発掘調査は、第49次調査については押方みはる（海老名市教育委員会教育総務課文化財係）、第58次調査は楠本彩乃（海老名市教育委員会教育総務課文化財係　～令和３年９月30日）、和田山千暁（海老名市教育委員会教育総務課文化財係）、押方が担当した。

6．整理作業のうち、出土品の遺物実測、観察表作成、写真撮影等出土品整理作業委託はアルケーリサーチに委託し、遺物洗浄、注記、図面整理、一部の遺物実測、図版作成は市川由希子（海老名市教育委員会教育総務課文化財係）ほか海老名市会計年度任用職員が行った。

7．発掘調査及び整理調査に際し、次の諸氏、諸機関よりご協力を賜った。（順不同、敬称略）
株式会社アーク・フィールドワークシステム、建設NRT株式会社、海老名市消防本部、工藤卓、工藤直子、小泉榮子、元島隆誉、河合英夫

8．本書の執筆は、押方、和田山が以下のとおり分担し、全体の編集は押方が行った。
押方みはる　第１章、第２章第１節、第２節２、第３～６章
和田山千暁　第２章第２節１

9．現地調査の写真撮影は、第49次調査は押方が、第58次調査は楠本、和田山が行った。

10. 本発掘調査に係る出土品及び図面、写真等の記録類は一括して海老名市教育委員会で保管している。

11. 本発掘調査に係る出土品の注記については、遺跡名の略号を「尼北49」、「尼北58」とした。

12. 遺物観察表中の出土位置は、現場での取り上げ時に用いた出土位置情報であり、№は報告書の図番号とは異なる。

13. 遺構・遺物に係る挿図中の指示は、次のとおりである。
・遺構（調査区）実測図の標高は海抜高度（東京湾平均海面：TP）を示す。
・土層観察の色調は『新版標準土色帖』2001年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修に準拠している。
・挿図の尺度は各図に示す。
・遺構・遺物挿図のパターンによる指示は以下に示す。

遺構		遺構断面図中の地山		焼土範囲		遺構覆土
		試掘坑		攪乱	
遺物		須恵器断面		自然釉	•	遺物出土位置

目　次

第１章　調査の経過 ･････････････････････････････････ 1
第１節　調査に至る経緯と経過 ･･････････････････････････ 1
１．第 49 次調査 ･････････････････････････････････ 1
２．第 58 次調査 ･････････････････････････････････ 2
第２節　調査等体制 ･････････････････････････････････ 3

第２章　遺跡概観 ･････････････････････････････････ 3
第１節　地理的環境 ･････････････････････････････････ 3
第２節　歴史的環境 ･････････････････････････････････ 7
１．周辺の遺跡 ･･････････････････････････････････ 7
２．国分尼寺北方遺跡の調査歴 ･･････････････････････ 9

第３章　調査経過 ･････････････････････････････････ 13
第１節　第 49 次調査の調査方法と経過 ･･････････････････ 13
第２節　第 58 次調査の調査方法と経過 ･･････････････････ 15

第４章　基本層序 ･････････････････････････････････ 17
１．第 49 次調査 ･････････････････････････････････ 17
２．第 58 次調査 ･････････････････････････････････ 17

第５章　発見された遺構と遺物 ･･････････････････････ 17
第１節　第 49 次調査 ･･･････････････････････････････ 17
１．奈良～平安時代 ･･･････････････････････････････ 17
２．古墳時代 ････････････････････････････････････ 22
第２節　第 58 次調査 ･･･････････････････････････････ 28
１．弥生～古墳時代 ･･･････････････････････････････ 28

第６章　まとめ ･･･････････････････････････････････ 33

参考文献 ･･ 35

挿図目次

第１図　調査地点位置図 …… 4
第２図　周辺地形分類図及び遺跡位置図 …… 5
第３図　第49次調査地点詳細図 …… 6
第４図　第58次調査地点詳細図 …… 6
第５図　周辺の主要な遺跡 …… 8
第６図　国分尼寺北方遺跡調査地点図 …… 10
第７図　第49次調査試掘坑、本格調査配置図 …… 14
第８図　第58次調査試掘調査図 …… 16
第９図　基本土層 …… 18
第10図　第49次調査奈良～平安時代遺構全体図 …… 19
第11図　第49次調査２号竪穴建物跡平断面図 …… 20
第12図　第49次調査１号溝、5・10号ピット、１号土坑平断面図 …… 20
第13図　第49次調査ピット平断面図 …… 21
第14図　第49次調査２号竪穴建物跡、１号溝、ピット出土遺物 …… 22
第15図　第49次調査古墳時代遺構全体図 …… 23
第16図　第49次調査古墳時代遺構平断面図 …… 24
第17図　第49次調査古墳時代出土土器 …… 25
第18図　第49次調査古墳時代出土石器 …… 26
第19図　第58次調査遺構全体図 …… 29
第20図　第58次調査１号竪穴住居跡平断面図 …… 30
第21図　第58次調査１号竪穴住居跡出土土器 …… 30
第22図　第58次調査２号竪穴住居跡平断面図 …… 31
第23図　第58次調査２号竪穴住居跡出土遺物 …… 32

表目次

第１表　第49次調査に係る届出等の経過一覧 …… 1
第２表　第58次調査に係る届出等の経過一覧 …… 2
第３表　国分尼寺北方遺跡調査履歴一覧 …… 11
第４表　第49次調査２号竪穴建物跡、１号溝、ピット出土土器観察表 …… 27
第５表　第49次調査１号竪穴建物跡、遺構外出土土器観察表 …… 27
第６表　第49次調査出土石器観察表 …… 27
第７表　第58次調査１、２号竪穴住居跡出土遺物観察表 …… 31

写真図版 目次

図版１（第49次調査）
１．Ⅰ区１号溝、1号土坑、ピット完掘状況（西から）
２．Ⅰ区１号溝遺物出土状況（西から）
３．Ⅰ区１号土坑調査状況（南から）
４．Ⅱ区調査状況（東から）
図版２（第49次調査）
１．Ⅲ区１号竪穴建物跡調査状況（北から）
２．１号竪穴建物跡炭化物出土状況(東から)
３．１号竪穴建物跡遺物出土状況（北から）
４．Ⅳ区２号竪穴建物跡、11～14号ピット調査状況（東から）
５．Ⅳ区２号竪穴建物跡土層堆積状況（南から）
６．Ⅳ区11号ピット調査状況（南から）
図版３（第49次調査）
第49次調査出土土器
図版４（第49･58次調査）
１．第49次調査出土石器
２．第58次地点試掘調査№１試掘坑（南から）
３．第58次地点試掘調査№２試掘坑（北から）
４．第58次地点試掘調査出土遺物
図版５（第58次調査）
１．１号竪穴住居跡調査状況（北から）
２．１号竪穴住居跡遺物出土状況
３．１号竪住居跡土層堆積状況（北から）
４．２号竪穴住居跡調査状況（北から）
５．２号竪穴住居跡掘り方調査状況（北から）
図版６（第58次調査）
１．２号竪穴住居跡遺物出土状況（北から）
２．２号竪穴住居跡遺物取り上げ状況（東から）
３．Ⅱ区全景写真撮影状況
４．２号竪穴住居跡遺物出土状況（東から）
図版７（第58次調査）
第58次調査出土遺物

第１章　調査の経過

第１節　調査に至る経緯と経過

１．第49次調査

平成26年５月、海老名市国分北一丁目2977番３において戸建て住宅の建築が計画され、事業主より海老名市教育委員会(以下、市教委)に「埋蔵文化財試掘調査に関する照会書」が提出された。建築計画では建物基礎の下に地盤改良を予定しており、39本の柱状改良が計画されていた。建築計画は「神奈川県内における開発事業等に伴う埋蔵文化財の取扱基準　別表１(1)」に該当する可能性があることから、事業主に対して事前に試掘調査を要する旨回答をした。その後事業主から市教委へ試掘調査の依頼があり、試掘調査を実施することとなった。当該地周辺では弥生時代から平安時代を中心とした遺構が多く確認されていることから、遺構の存する可能性が非常に高いと判断し、試掘調査により遺構、遺物を確認した場合は、引き続き本格調査を実施する旨事業主と調整し、試掘調査に着手した。

平成26年７月１日に建築物予定箇所に２ｍ×２ｍの試掘坑を１ヶ所設定したところ、奈良～平安時代の溝状遺構とみられる覆土が認められた。このため平成26年６月27日付で、事業者より提出されていた文化財保護法第93条に基づく発掘の届出について、発掘調査を要する旨意見を付して神奈川県教育委員会に進達するとともに、翌７月２日から工事により埋蔵文化財に影響を及ぼす範囲について本格調査を実施した。排土の仮置き場を確保しながら調査区を４区に分けて実施し、奈良～平安時代及び古墳時代の遺構について記録保存を行い、７月９日に終了した。各区の名称はⅠ～Ⅳ区とした。発掘に係る届出等の経過は第１表のとおりである。

第１表　第49次調査に係る届出等の経過一覧

文書番号・種別	文書番号	日　付	発信者	受信者	備　考
1 埋蔵文化財所在有無の照会					
埋蔵文化財試掘調査に関する照会		平成26年５月12日	事業主	海老名市教育委員会教育長	
同回答	海教総収第74号	平成26年５月14日	海老名市教育委員会教育長	事業主	
2 試掘調査・文化財保護法第99条に基づく発掘調査					
試掘調査の依頼		平成26年５月16日	事業主	海老名市教育委員会教育長	
発掘調査の承諾		平成26年７月１日	事業主	海老名市教育委員会教育長	
試掘調査及び発掘調査結果報告	海教総発第91号	平成27年２月27日	海老名市教育委員会教育長	事業主	
3 文化財保護法第93条に基づく埋蔵文化財発掘の届出					
届出		平成26年６月27日	事業主	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会を経由
通知	文遺第61039号	平成26年７月14日	神奈川県教育委員会教育長	事業主	海老名市教育委員会を経由
4 出土品の手続き					
埋蔵物発見届		平成26年７月25日	海老名市教育委員会教育長	海老名警察署長	
出土文化財保管証の提出		平成26年７月25日	海老名市教育委員会教育長	神奈川県教育委員会教育長	
埋蔵物の文化財認定と帰属について	文遺第51019号	平成26年10月２日	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会教育長 土地所有者	
出土文化財の譲与について(申出)	文遺第51号	平成27年４月20日	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会教育長	
出土文化財の譲与について(回答)	海教総収第54号	平成27年５月１日	海老名市教育委員会教育長	神奈川県教育委員会教育長	
出土文化財の譲与について(通知)	文遺第155号	平成27年５月28日	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会教育長	

２．第58次調査

海老名市上今泉三丁目1182番27は宅地造成により区画された１宅地である。宅地造成時には周辺区域について第52次調査として本格調査が実施されていたが、本地点については宅地造成による掘削が及ばなかったため、第52次調査の範囲に含まれていなかった。宅地造成後、令和２年３月に、別の事業主より本地点と東側に隣接する宅地において、２棟の住宅建築のため、市教委に「埋蔵文化財試掘調査に関する照会書」が提出された。令和２年５月14，15日に市教委で試掘調査を実施したところ、弥生時代から古墳時代の竪穴住居跡とみられる遺構が確認されたが、その後照会のあった住宅建築は取り下げられた。

令和３年３月に新たに本地点において個人住宅の建築が計画され、事業主より市教委に「埋蔵文化財試掘調査に関する照会書」が提出された。建築計画では建物基礎の下に地盤改良を予定していたため、「神奈川県内における開発事業等に伴う埋蔵文化財の取扱基準　別表１（１）」に該当し、市教委は事業主に対して着工前に本格調査を要する旨回答をした。令和３年４月12日、事業者より文化財保護法第93条に基づく土木工事の届出がされ、同年４月22日付けで神奈川県教育委員会より事業者に本発掘調査についての通知がなされたことから、文化財保護法第99条に基づき市教委が発掘調査を行うこととした。

発掘調査は、計画建物の地盤改良により埋蔵文化財に影響を及ぼす範囲を２区設定し、本格調査を実施した。排土の仮置き場を確保しながら調査を実施したため１区ずつ実施し、竪穴住居跡２軒の一部を調査し、５月26日に終了した。調査区の名称はⅠ、Ⅱ区とした。発掘に係る届出等の経過は第２表のとおりである。

第２表　第58次調査に係る届出等の経過一覧

文書番号・種別	文書番号	日　付	発信者	受信者	備　考
1 埋蔵文化財所在有無の確認					
埋蔵文化財試掘調査に関する照会		令和２年３月30日	事業主	海老名市教育委員会教育長	
同回答	海教総収第567号	令和２年３月31日	海老名市教育委員会教育長	事業主	
2 試掘調査					
試掘調査の依頼		令和２年４月９日	事業主	海老名市教育委員会教育長	
調査結果に基づく回答	海教総発第14号	令和２年５月28日	海老名市教育委員会教育長	事業主	
3 埋蔵文化財所在有無の確認					
埋蔵文化財試掘調査に関する照会		令和３年３月８日	事業主	海老名市教育委員会教育長	事業主、事業内容変更
同回答	海教総収第575号	令和３年３月11日	海老名市教育委員会教育長	事業主	
4 文化財保護法第93条に基づく埋蔵文化財発掘の届出					
届出		令和３年４月12日	事業主	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会を経由
通知	文遺第61011号	令和３年４月22日	神奈川県教育委員会教育長	事業主	海老名市教育委員会を経由
5 文化財保護法第99条に基づく発掘調査					
発掘調査依頼・発掘調査承諾		令和３年４月12日	事業主	海老名市教育委員会教育長	
発掘調査結果概要報告		令和３年６月17日	海老名市教育委員会教育長	事業主・神奈川県教育委員会	
6 出土品の手続き					
埋蔵物発見届		令和３年６月１日	海老名市教育委員会	海老名警察署長	
出土文化財保管証の提出		令和３年６月１日	海老名市教育委員会	神奈川県教育委員会教育長	
埋蔵物の文化財認定と帰属について	文遺第51010号	令和３年６月17日	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会	
出土文化財の譲与について（申出）	文遺第2681号	令和４年３月３日	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会教育長	
出土文化財の譲与について（回答）	海教総収第530号	令和４年３月９日	海老名市教育委員会教育長	神奈川県教育委員会教育長	
出土文化財の譲与について（通知）	文遺第2926号	令和４年３月28日	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会教育長	

第２節　調査等体制

発掘調査

第49次調査（平成26年度）

海老名市教育委員会教育長 伊藤文康、教育部長 萩原圭一、教育部次長 植松正、教育総務課長兼特定政策担当課長 金指太一郎、文化財係長 羽倉信昭、主査 押方みはる、主任主事 向原崇英、臨時職員 市川由希子

第58次調査（令和２、３年度）

海老名市教育委員会教育長 伊藤文康、教育部長 伊藤修、教育部次長 澤田英之、教育部専任参事 萩原明美（令和３年度）、教育部参事兼教育総務課長　中込紀美子、主幹（令和２年度）文化財担当課長兼（令和３年度）文化財係長 押方みはる、副主幹 今野まりこ（令和２年度）、主事補　楠本彩乃（～令和３年９月末）、主事補　和田山千暁、会計年度任用職員　市川由希子

出土品整理・報告書作成

（平成26年度）

海老名市教育委員会教育長 伊藤文康、教育部長 萩原圭一、教育部次長 植松正、教育総務課長兼特定政策担当課長 金指太一郎、文化財係長 羽倉信昭、主査 押方みはる、主任主事 向原崇英、臨時職員 市川由希子

（令和３年度）

海老名市教育委員会教育長 伊藤文康、教育部長 伊藤修、教育部次長 澤田英之、教育部専任参事 萩原明美、教育部参事兼教育総務課長　中込紀美子、文化財担当課長兼文化財係長 押方みはる、主事補　楠本彩乃（～令和３年９月末）、主事補　和田山千暁、会計年度任用職員 市川由希子

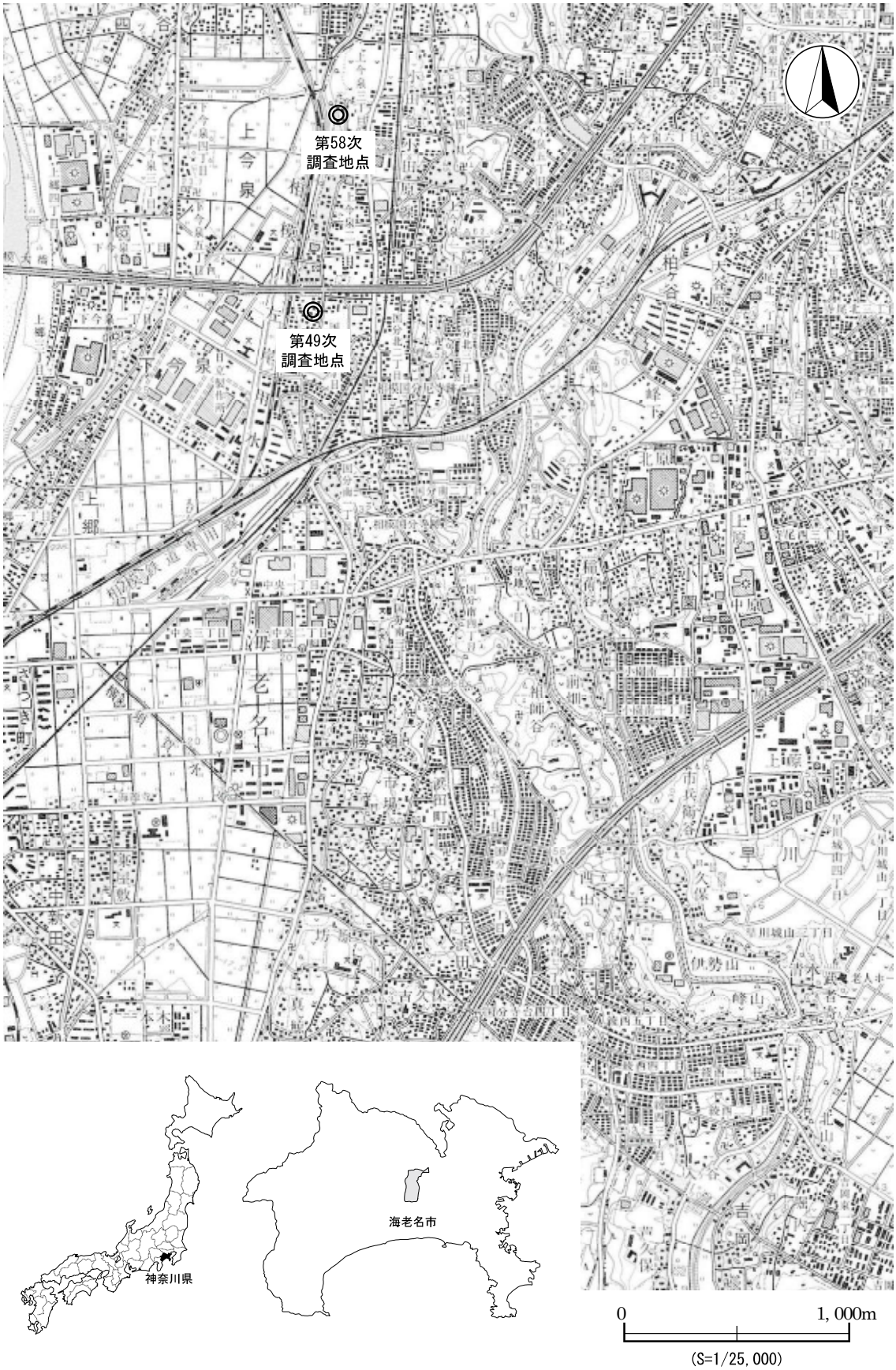
（令和４年度）

海老名市教育委員会教育長 伊藤文康、教育部理事　小宮洋子、教育部長中込明宏、教育部次長 江下裕隆、教育部専任参事 萩原明美、教育部参事兼教育総務課長 西海幸弘、文化財担当課長兼文化財係長 押方みはる、主事 和田山千暁、会計年度任用職員 市川由希子

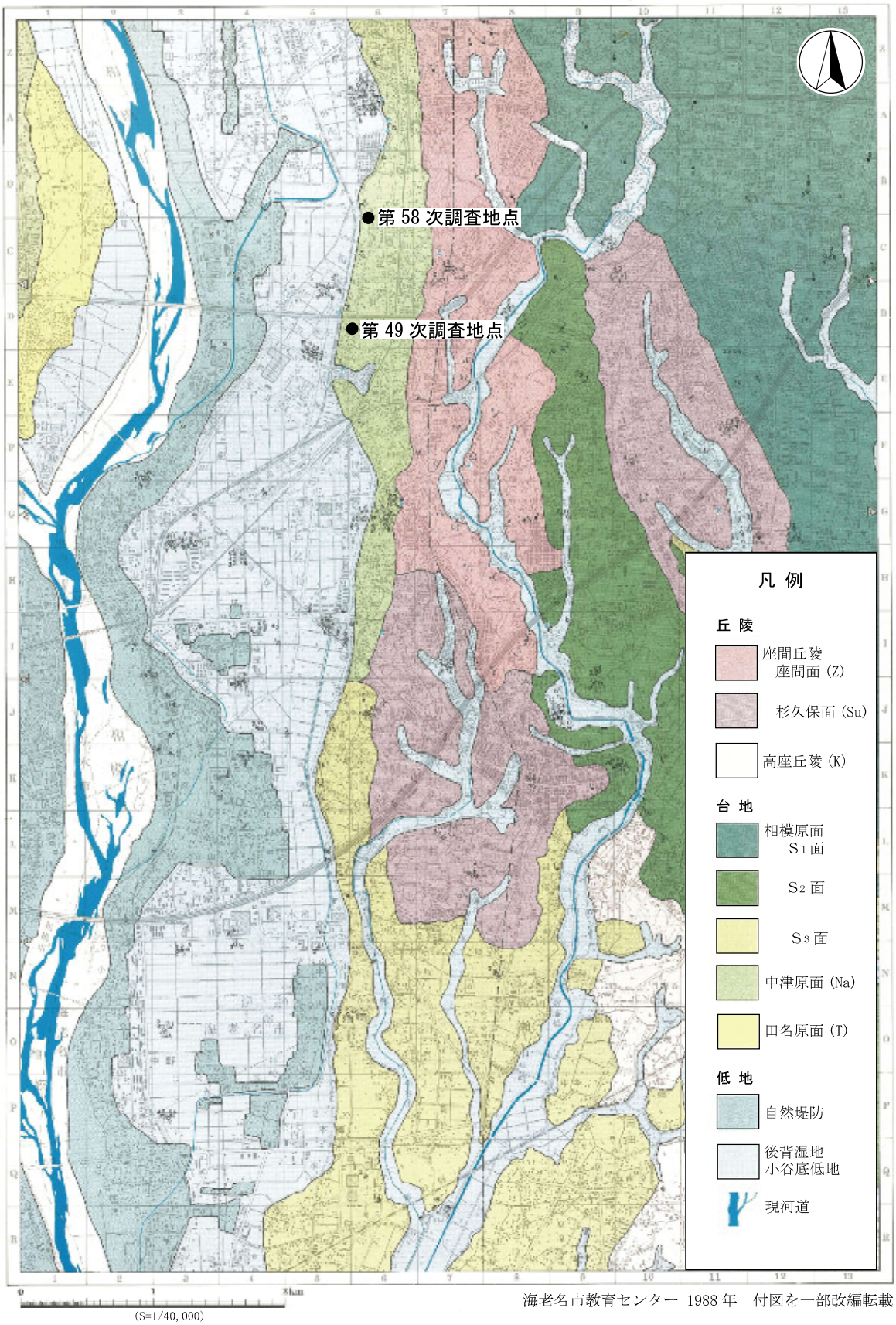
第２章　遺跡概観

第１節　地理的環境（第１～４図）

神奈川県のほぼ中央に位置する海老名市は、相模川の左岸に位置する。市域の地形は大きく分けると、西側は相模川の浸食、堆積によって形成された沖積低地、東側は相模野台地、座間丘陵から成り立っている。国分尼寺北方遺跡は、市域の北部、相模野台地上の中津原面及び東側の一部が座間丘陵端部に立地し、海老名市国分北一丁目、上今泉一～四丁目にかけ



第１図　調査地点位置図　（国土交通省国土地理院発行「座間」を使用）



海老名市教育センター 1988 年　付図を一部改編転載

第２図　周辺地形分類図及び本遺跡位置図〔S=1/40,000〕

第３図　第49次調査地点詳細図

第４図　第58次調査地点詳細図

て東西0.2～0.45km、南北約1.54kmの範囲に広がっており、海老名市域で最も広い埋蔵文化財包蔵地となっている。当該遺跡の標高は約32～40mを測り、概ね南から北に向かい緩やかに標高が高くなる。西側は相模横山九里の土手と呼ばれる段丘崖に接し、沖積低地までは８～15mの比高差がある。一方東側は座間丘陵に接し、丘陵頂部まで続く斜面地となる。中津原面上には、本遺跡の南側に国史跡相模国分尼寺跡、相模国分寺跡が立地する。

遺跡の南側には国道246号線バイパスが東西に走り、県道40号が南北に縦断、小田急小田原線も並行する。昭和30年代以降徐々に宅地化が進み、現在は北部の市街化調整区域を除き主に住宅地となっている。

第２節　歴史的環境

１．周辺の遺跡（第５図）

国分尼寺北方遺跡は、縄文時代から近世にかけての遺跡であり、特に弥生時代中期以降古墳時代、奈良～平安時代、中世についての調査成果が顕著である。今回報告する第49次調査では古墳時代、奈良～平安時代の遺構が、また第58次調査では弥生時代末から古墳時代初頭の遺構が確認されている。

市域には旧石器時代から近世に至るまで各時代の遺跡が台地、丘陵、相模川河岸の自然堤防上を中心に多く確認されているが、ここでは今回の調査で遺構が確認された弥生時代から平安時代を中心に周辺の遺跡について概観する。

市域における弥生時代の遺跡は、大半が相模野台地と相模川の自然堤防上に立地しており、中期から後期の遺跡が多く分布している。相模野台地上にある中期の遺跡のなかで、杉久保蓮谷遺跡（海28)、本郷中谷津遺跡（海４）で方形周溝墓と環濠の可能性のある溝が調査されている。また相模野台地武蔵野面に位置する杉久保内藤原遺跡（海90）でも環濠の可能性のある溝が確認されている。また沖積低地上にある中野桜野遺跡（海81）や河原口坊中遺跡（海52）でも方形周溝墓と竪穴住居跡が確認されている。これらの遺跡では集落に近接して方形周溝墓の墓域が広がる傾向がみられる。相模川の沖積地でも、四大縄遺跡（海47）でプラント・オパールを多量に含む層から中期後半の土器が出土している。

後期になると社家宇治山遺跡（海76）にも集落や方形周溝墓が出現し、河原口坊中遺跡とともに古墳時代前期まで継続する。また海老名耕地を臨む低位の台地上に位置する本郷遺跡（海３）でも後期になると大規模な方形周溝墓群を伴う環濠集落が成立した。

古墳時代前期初頭になると、座間丘陵上に秋葉山古墳群（海30）が出現する。南北に細長く延びる尾根筋に密集して六基の古墳が分布している。周溝や墳丘上から出土した土器から３号墳が最初に築造されたと考えられ、築造年代は３世紀後半に遡ることが明らかになっている。秋葉山古墳群から南に約2.5kmの同一尾根上には上浜田古墳群（海45）が分布する。瓢箪塚古墳（第７号墳）は相模川東岸で最大の前方後円墳で、４世紀末頃に位置づけられ、第２号墳、太鼓塚古墳（第５号墳）は、出土遺物から５世紀後半の築造とみられる。上浜田古墳群よりさらに南に約２kmの地点に伊勢山古墳群があり、２号墳は周溝内や墳丘上から出土した土器から５世紀末から６世紀初頭に位置づけられる。

また古墳時代後期になると相模川沖積低地から相模野台地に移行する崖面や目久尻川沿い座間丘陵上の小さな谷に面した崖面などに横穴墓が群をなして構築される。代表的なものとして上今泉横穴墓群（海40)、杉久保内藤原横穴墓群（海61）等があり、一部の横穴墓では、羨門を切石で積み、前庭部の壁側には河原石を積み上げるものもみられる。

奈良～平安時代になると、相模野台地中津原面に相模国分寺（海１）が建立される。法隆寺式の伽藍配置で、発掘調査で塔・金堂・僧房・講堂跡等が確認されている。相模国分寺跡から北に約500mの地点には相模国分尼寺跡（海２）がある。これまでの調査で金堂・講堂・

海1　相模国分寺跡・国分宿遺跡
海2　相模国分尼寺跡
海3　本郷遺跡
海4　本郷中谷津遺跡
海6　海老名市No.6遺跡
海7　海老名市No.7遺跡
海8　海老名市No.8遺跡
海10　杉久保遺跡
海11　杉久保横穴墓群
海12　海老名市No.12遺跡
海22　海老名市No.22遺跡
海24　海老名市No.24遺跡
海25　海老名市No.25遺跡
海26　海老名市No.26遺跡
海27　海老名市No.27遺跡
海28　杉久保蓮谷遺跡
海29　上今泉谷遺跡
海30　秋葉山古墳群
海31　灯塚
海33　杉久保宮ノ前遺跡
海34　望地遺跡
海35　国分尼寺北方遺跡
海36　内出遺跡
海37　逆川跡
海38　海老名市No.38遺跡
海39　下の谷戸遺跡
海40　上今泉横穴墓群
海41　畜産試験場内遺跡
海42　海老名市No.42遺跡
海43　御屋敷遺跡
海44　上の台遺跡
海45　上浜田遺跡・上浜田古墳群
海46　大松原遺跡
海47　四大縄遺跡
海51　海老名市No.51遺跡
海52　河原口坊中遺跡
海54　国分南原西遺跡
海55　宮台遺跡
海56　国分南原遺跡
海57　国分押掘横穴墓群
海58　大谷坊原遺跡
海59　大谷吉久保遺跡
海60　大谷真鯨遺跡
海61　杉久保内藤原横穴墓群
海63　海老名市No.63遺跡
海64　海老名市No.64遺跡
海65　海老名市No.65遺跡
海66　伊勢山古墳群
海68　海老名市No.68遺跡
海69　大谷下浜田遺跡
海73　上今泉五丁目遺跡
海74　海老名市No.74遺跡
海76　社家宇治山遺跡
海77　大谷向原遺跡
海78　大松原東遺跡
海80　大谷市場遺跡
海81　中野桜野遺跡
海82　跡掘遺跡
海84　杉久保土合横穴墓群
海85　杉久保東谷遺跡
海86　上郷遺跡
海87　有鹿丘経塚
海88　有鹿遺跡
海89　杉久保釜坂遺跡
海90　杉久保内藤原遺跡

第５図　周辺の主要な遺跡

鐘楼跡等が確認されている。

また目久尻川から分水した逆川跡（海37）は、座間丘陵上沿いに南西方向の流路をとったあと、北西に流れを変える古代の運河跡であり、相模国分寺及び相模国分尼寺の建立を考える上で重要な遺跡である。目久尻川を挟んだ対岸の丘陵斜面上に位置する望地遺跡（海34）では、８世紀後半に営まれた竪穴状遺構や重複した道路状遺構が確認され、『延喜式』の駅路に想定されるものとして注目される。

この他、上浜田遺跡、大谷向原遺跡（海77）、大谷市場遺跡（海80）では丘陵上や台地平坦部を中心に集落を形成している。大谷向原遺跡では大型で規則性を持つ掘立柱建物跡が検出され、遺物として「高坐官」の墨書土器や風字硯、刀子等が確認されている。大谷向原遺跡の北側に位置する大谷真鯨遺跡（海60）でも、「大宅」と書かれた墨書土器や大形の井戸跡等が確認されており、大谷向原遺跡と関連した機能を持つ遺跡であった可能性もある。

このように奈良～平安時代には公的施設や、一般集落とはやや異なる遺跡もみられる。

２．国分尼寺北方遺跡の調査歴（第６図、第３表）

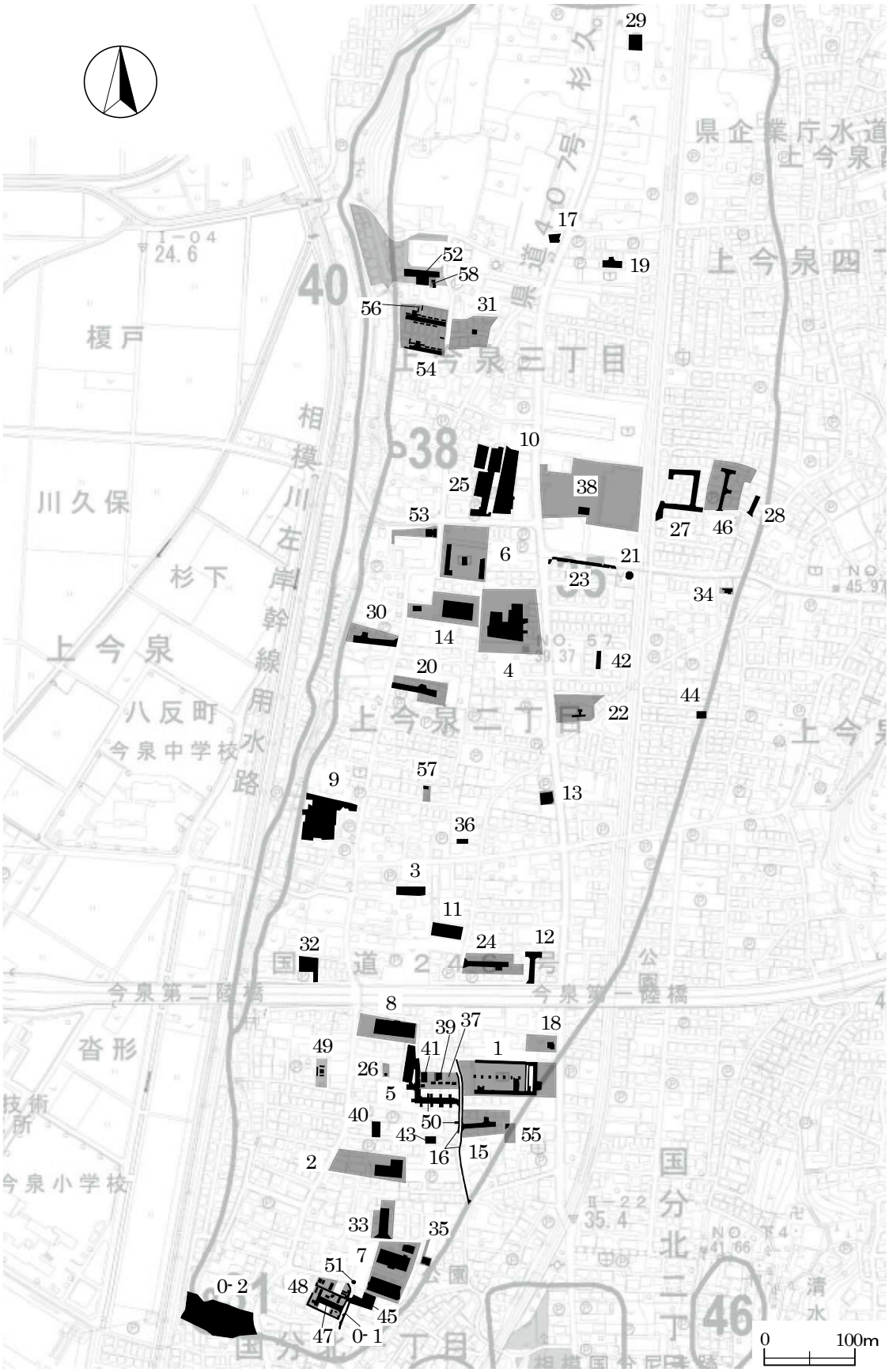
国分尼寺北方遺跡はその名称のとおり、相模国分尼寺跡の北側に展開する遺跡である。本遺跡については過去の調査次数としては58次が数えられているが、この次数に含まれない調査もあり、これまでに60地点以上の本格的な発掘調査が実施されてきた。

最も早く行われた調査は下水道工事に伴い1986年に緊急で実施された地下式壙の調査で、「尼寺遺跡」の名称で報告がなされている（0-1）。その後現在の国分北一丁目において1988年に共同住宅に伴う調査が行われ、近年刊行された発掘調査報告書により縄文時代竪穴住居跡、古墳墳裾、中世墓群、地下式壙、中近世ピット群の存在が明らかにされた（0-2）。その後1990年以降、工場や共同住宅の建設等が増加し、県道407号沿いや、遺跡南側を中心に発掘調査が散発的に実施され、主には奈良～平安時代の遺構が調査されてきた。

１次調査地点ではカマドに瓦が使用された竪穴建物跡、掘立柱建物跡、東西方向の溝が確認され、７次調査では庇付掘立柱建物跡や溝とともに「法華寺」の墨書がある内黒土師器坏や、「寺」や則天文字風の墨書がある土師器坏が出土するなど、奈良～平安時代の相模国分尼寺の寺域や関連施設が存在したものとみられるようになった。また、古代から中世の道路状遺構が多く確認されており、13、18次調査地点では、南北方向の道路状遺構が確認され、武蔵方向へ向かう道として注目されている。10、11、17、23、25、27、28次調査地点等でも９世紀後半以降から中世にかけての東西方向の道路状遺構が確認されている。

1995年、共同住宅建設に伴い崖線際で９次調査が行われ、弥生時代中期宮ノ台式期の集落跡が確認された。４次調査、７次調査でも中期の方形周溝墓が確認されていたが、その後30、52、53、54次調査など崖線寄りの地点での調査事例が増加するにつれ、台地西側を中心に、弥生時代中期から古墳時代初頭の集落が存在することが分かってきた。47、54次調査では環濠の一部も調査されており、複数の環濠集落があるものとみられる。

本書で報告する第58次調査地点周辺では弥生時代中期から後期、古墳時代初頭にかけての



第６図　国分尼寺北方遺跡調査地点図

第３表　国分尼寺北方遺跡発掘調査履歴

	調査年度	調査地番	工事等目的	調査機関等	遺構等	主な時期	文献
0-1	S61	海老名市国分尼寺3000番地	その他工事 （下水道）	尼寺遺跡調査団	地下式坑	中世	1
0-2	S63	国分字尼寺3004番1外2筆	住宅	伊東秀吉	竪穴住居跡１、集石、古墳墳丘裾、火葬墓、土葬墓、地下式坑、地下蔵、溝、柱穴	縄文、古墳、中世、近世	2
1	次 S63	海老名市国分字尼寺3074番1外	倉庫 （配送センター）	相模国分尼寺関連遺跡第１次調査団	竪穴住居跡16、掘立柱建物跡１、溝２、土坑、ピット	奈良・平安	3
2	次 H２	海老名市国分字尼寺3051番地他1筆	その他建物	相模国分尼寺関連遺跡調査団	竪穴住居跡12、掘立柱建物跡２	奈良・平安	28
3	次 H３	海老名市上今泉二丁目1455番他1筆	住宅	海老名市№38遺跡発掘調査団	竪穴住居跡３、竪穴建物跡、土坑、ピット	平安	29
4	次 H３	海老名市上今泉二丁目1499-1	共同住宅	相模国分尼寺北方遺跡発掘調査団	竪穴住居跡、掘立柱建物跡、方形周溝墓、溝	弥生～古墳、奈良・平安	29
5	次 H３	海老名市国分北一丁目3066	倉庫	相模国分尼寺北方遺跡発掘調査団	竪穴住居跡、溝状遺構	古墳～平安	29
6	次 H４	海老名市上今泉二丁目1516-1、1517-1、1518-1	その他建物	相模国分尼寺北方遺跡発掘調査団	竪穴住居跡５、溝状遺構１、土坑２、柱穴	弥生、奈良・平安	30
7	次 H５	海老名市国分北一丁目3032番1	共同住宅	国分尼寺北方遺跡調査団	方形周溝墓１、住居跡１、掘立柱建物跡２、溝状遺構６、道路状遺構１、馬首埋納土坑２、土坑９	弥生、奈良・平安	4
8	次 H５	海老名市国分北一丁目3062番1	共同住宅	国分尼寺北方遺跡調査団	住居跡11、掘立柱建物跡３、溝状遺構３、地下式坑１、土坑６	古墳、奈良・平安、中世	4
9	次 H５	海老名市上今泉二丁目1591-2他	共同住宅	相模国分尼寺北方遺跡発掘調査団	竪穴住居跡15、方形周溝墓１、溝状遺構２、礎石建物跡１、地下式坑１、竪穴状遺構２、井戸跡１、土坑50、柱穴388	弥生～古墳、近世	37、38
		海老名市上今泉二丁目1591-2他 ※上今泉横穴墓群	共同住宅	相模国分尼寺北方遺跡発掘調査団	横穴墓２	古墳	
10	次 H５	海老名市上今泉三丁目1522-1	共同住宅	相模国分尼寺北方遺跡 第10次調査発掘調査団	竪穴住居跡１、溝状遺構３、掘立柱建物跡２、地下式坑３、竪穴状遺構６、敷石遺構１、土坑50、柱穴388	奈良・平安、近世	37、38
11	次 H６	海老名市上今泉二丁目2727番1、2728番1	共同住宅	相模国分尼寺北方遺跡 第11次調査発掘調査団	竪穴住居跡８、溝状遺構２、土坑15、柱穴49	奈良・平安	38
12	次 H７	海老名市上今泉二丁目2748番地他6筆	宅地造成	尼寺北方遺跡調査団	住居跡９、掘立柱建物跡１、柱穴列２、土坑・ピット	奈良・平安	5
13	次 H７	海老名市上今泉二丁目2796番1	店舗	尼寺北方遺跡第13次調査発掘調査団	道路状遺構１、柱穴９	奈良・平安	33
14	次 H７	海老名市上今泉二丁目1504-1外1筆	住宅	尼寺北方遺跡 第14次遺跡調査団	方形周溝墓２、竪穴住居跡１、ピット37、溝状遺構３	弥生～平安	6
15	次 H８	海老名市国分北一丁目3078-2	宅地造成	海老名市№35遺跡発掘調査団	道状遺構１、溝状遺構１、土坑・ピット128	奈良・平安、近世	34
16	次 H９	海老名市国分北一丁目地先 （市道192号線地内）	道路	海老名市№35遺跡調査団	竪穴住居跡５、溝状遺構１、土坑･ピット31	平安	7
17	次 H３	海老名市上今泉三丁目1192番1	水道	神奈川県教育委員会 財団法人かながわ考古学財団	〔奈良･平安〕道状遺構、円形土坑、ピット、〔古墳〕溝状遺構	古墳、奈良・平安	8
18	次 H３	海老名市国分3072-1	水道	神奈川県教育委員会 財団法人かながわ考古学財団	〔近世〕畑状遺構、〔中世〕道状遺構、〔奈良・平安〕ピット	奈良・平安、中世、近世	8
19	次 H10	海老名市上今泉三丁目1118他3筆	宅地造成	相模国分尼寺北方遺跡 第17次調査団	竪穴住居跡１、土坑２、溝状遺構１	平安	12
20	次 H10	海老名市上今泉二丁目1493番1外2筆	宅地造成	相模国分尼寺北方遺跡 第20次調査団	方形周溝墓２、竪穴住居跡１、円形土坑１	弥生、奈良・平成	9
21	次 H11	海老名市上今泉二丁目2842番1	貯水槽	海老名市遺跡調査会	ピット群	中世	36
22	次 H11	海老名市上今泉二丁目2814-1	その他建物 （共同住宅）	海老名市№35遺跡発掘調査団	道状硬化面	奈良・平安	10
23	次 H11	海老名市上今泉二丁目9番18号地先他	道路	国分尼寺北方遺跡調査団	溝	奈良・平安	11
24	次 H12	海老名市上今泉二丁目2745番地1外4筆	宅地造成・ 個人住宅	国分尼寺北方遺跡 第24次発掘調査団	竪穴建物跡２、掘立柱建物跡２、土坑23、小穴14	奈良・平安	12
25	次 H12	海老名市上今泉三丁目1523番他5筆	道路、集合住宅	国分尼寺北方遺跡発掘調査団	竪穴住居跡５、掘立柱建物跡２、溝状遺構３、土坑72、段切り状遺構１、地下式坑２、ピット群	平安、中近世	13
26	次 H17	海老名市国分北一丁目3060-11	個人住宅	海老名市教育委員会	竪穴住居	古墳	37
27	次 H17	海老名市上今泉四丁目946番ほか3筆	宅地造成	株式会社日本窯業史研究所	竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、溝、道路状遺構	平安、中世、近世	14
28	次 H17	海老名市上今泉四丁目942番1ほか4筆	宅地造成	株式会社日本窯業史研究所	竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、溝、道路状遺構	古墳、奈良、平安、中世	14
29	次 H17	海老名市上今泉三丁目1054番1	その他工事 （通信用鉄塔）	有限会社ブラフマン	竪穴住居跡、掘立柱建物、溝	古代、近世～中世	15
30	次 H18	海老名市上今泉二丁目2847-1	宅地造成	有限会社ブラフマン	竪穴住居跡、溝、土坑、ピット	弥生、中世、近世	16
31	次 H18	海老名市上今泉三丁目1176-1他2筆	宅地造成	有限会社ブラフマン	竪穴住居跡、竪穴状遺構	古墳、平安	17
32	次 H19	海老名市上今泉二丁目1616-3他	個人住宅	海老名市教育委員会	竪穴住居跡２、溝２	古代	38
33	次 H19	海老名市国分北一丁目3045番1	宅地造成	有限会社ブラフマン	竪穴住居跡４、掘立柱建物１、ピット30	古代	18
34	次 H20	海老名市上今泉一丁目20-18	個人住宅	海老名市教育委員会	ピット98	中世	39
35	次 H20	海老名市国分北一丁目3031-2、-3	個人住宅	海老名市教育委員会	方形周溝墓２、土坑７、小穴３	弥生、奈良・平安	39

	調査年度	調査地番	工事等目的	調査機関等	遺構等	主な時期	文献
36 次	H20	海老名市上今泉二丁目1464番2他	宅地造成	有限会社ブラフマン	竪穴住居跡、土坑、ピット	平安	19
37 次	H23	海老名市国分北一丁目3069番1	宅地造成	株式会社アーク・フィールドワーク・システム	竪穴建物跡３、掘立柱建物跡、溝跡２、ピット４	平安	20
38 次	H23	海老名市上今泉三丁目1329-1他5筆	店舗	有限会社吾妻考古学研究所	溝状遺構８、ピット12	平安～近世	21
39 次	H23	海老名市国分北一丁目3069-11	個人住宅	海老名市教育委員会	溝状遺構１、土坑３、ピット17	古代～中世	40
40 次	H24	海老名市国分北一丁目3054番19	個人住宅	海老名市教育委員会	〔平安〕掘立柱建物１、〔平安～中世〕土坑４、ピット70	平安～中世	40
41 次	H24	海老名市国分北一丁目3069-13	個人住宅	海老名市教育委員会	〔平安～中世〕竪穴１、溝、ピット15	平安～中世	40
42 次	H24	海老名市上今泉二丁目2815番1	宅地造成	有限会社ブラフマン	竪穴状遺構１、ピット２	平安	22
43 次	H24	海老名市国分北一丁目3055番4	個人住宅	海老名市教育委員会	〔古墳～奈良〕竪穴１、〔平安～中世〕溝３、硬化面１、土坑３、ピット８	古墳、奈良・平安、中世	40
44 次	H24	海老名市上今泉一丁目1364番20、1376番4	個人住宅	海老名市教育委員会	〔中世〕溝１	中世	40
45 次	H24	海老名市国分北一丁目3024番ロ	個人住宅	海老名市教育委員会	〔弥生〕方形周溝墓１、〔平安〕竪穴建物跡１、〔平安～中世〕土坑５、ピット群	弥生～中世	40
46 次	H26	海老名市上今泉四丁目944番1他	宅地造成	有限会社ブラフマン	竪穴建物跡２、土坑１、ピット１	古代	23
47 次	H25	海老名市国分北一丁目3013番1及び同番2	宅地造成	有限会社吾妻考古学研究所	〔古墳時代前期〕溝状遺構１、〔奈良・平安時代～中世〕：掘立柱建物跡１、竪穴状遺構３、土坑４、ピット46、〔近世～近代〕柱穴列１、土坑７、溝状遺構13、井戸状遺構１、ピット103	古墳～近代	24
48 A次	H25	海老名市国分北一丁目3013番8	個人住宅	海老名市教育委員会	〔弥生・古墳〕性格不明遺構１ 〔奈良・平安〕溝１ 〔平安・中世〕ピット５	古代～中世?	41
B次	H25	海老名市国分北一丁目3013番9	個人住宅	海老名市教育委員会	〔奈良・平安〕溝２、〔近世〕土坑１、〔不明〕ピット複数	古代・近世	41
C次	H25	海老名市国分北一丁目3013番11	個人住宅	海老名市教育委員会	〔奈良・平安・中世〕ピット８ 〔中世・近世〕溝１ 〔近世〕土坑１	奈良・平安～近世	41
D次	H25	海老名市国分北一丁目3013番5	個人住宅	海老名市教育委員会	〔奈良・平安〕柱穴１〔近世〕溝１ 〔不明〕ピット２	奈良・平安～近世	41
E次	H26	海老名市国分北一丁目3013番4	個人住宅	海老名市教育委員会	〔近世〕溝２〔不明〕ピット４	近世	41
F次	H26	海老名市国分北一丁目3013番13	個人住宅	海老名市教育委員会	〔中世〕溝１、土坑１、ピット15	中・近世	41
G次	H26	海老名市国分北一丁目3013番7	個人住宅	海老名市教育委員会	〔奈良・平安〕竪穴状遺構１、溝状遺構１、ピット４、不明遺構２	弥生～古墳、奈良・平安、中世	—
H次	H27	海老名市国分北一丁目3013番10	個人住宅	海老名市教育委員会	ピット11、柱穴４、土坑１、溝状遺構１、不明遺構	中・近世	42
49 次	H26	海老名市国分北一丁目2977番3	個人住宅	海老名市教育委員会	〔古墳〕竪穴建物跡１、ピット２、〔奈良・平安〕竪穴建物跡１、溝１、ピット12	古墳、奈良・平安	本書
50 次	H26	海老名市国分北一丁目3066番他3筆	宅地造成	有限会社吾妻考古学研究所	〔平安時代〕住居跡７、溝２、土坑３、ピット群	古墳、奈良・平安	25
51 次	H27	海老名市国分北一丁目3035番1	その他工事（下水道）	株式会社イビソク神奈川営業所	溝状遺構、道状遺構、ピット	奈良・平安	26
52 次	H28	海老名市上今泉三丁目1182番3ほか10筆及び1296番の一部ほか4筆の各一部	宅地造成	株式会社 アーク・フィールドワークシステム	〔弥生〕竪穴建物跡13棟・土坑13基・溝３条・性格不明遺構１基〔古墳〕竪穴建物跡４棟・土坑１基・溝２条〔中世〕土壙墓１基〔近世以降〕地下室１基・土坑８基・畝１基・段切り１ケ所・ピット56基	弥生・古墳・中世・近世以降	43
53 次	H29	海老名市上今泉二丁目1554-3の一部	宅地造成	有限会社　盤古堂CS	〔弥生〕竪穴住居跡１	弥生	43
54 次	H29	海老名市上今泉三丁目1306-1ほか5筆	宅地造成	株式会社　相模考古学研究所	竪穴住居跡５、竪穴状遺構１、方形周溝墓４、溝１、環濠１、道路状遺構１、土坑、ピット	弥生～近世	27
55 次	H30	海老名市国分北一丁目3079-11	個人住宅	海老名市教育委員会	〔奈良・平安〕溝状遺構２、ピット	奈良・平安	44
56 次	R１	海老名市上今泉三丁目1306番10	個人住宅	海老名市教育委員会	〔弥生〕竪穴住居跡〔平安～中世〕溝状遺構、土坑、ピット	弥生、平安～中世	45
57 次	R２	海老名市上今泉二丁目1467番2	個人住宅	海老名市教育委員会	〔奈良・平安〕溝状遺構	奈良、平安	46
58 次	R２	海老名市上今泉三丁目1182番27	個人住宅	海老名市教育委員会	〔弥生〕竪穴住居跡跡２	弥生、近世	本書

集落、墓域が広がることが判明しており、現時点での相模川流域東岸における当該期集落の北端にあたると評価される。

このほか、５次、８次調査地点では５世紀後半から６世紀前半にかけての竪穴住居跡が確認されており、市域では数少ない、古墳時代中期後半から後期初頭の発掘調査事例となっている。

第３章　調査経過

第１節　第49次調査の調査方法と経過

試掘調査（第７図）

住宅建築部分のほぼ中央に２ｍ×２ｍの試掘坑を１ヶ所設定した。

重機により表土を除去し、地表から約１ｍのⅣ層下面で土層精査を行ったところ、東西方向に幅40～50㎝の溝状の遺構覆土とピット覆土を確認した。

本格調査（第７図）

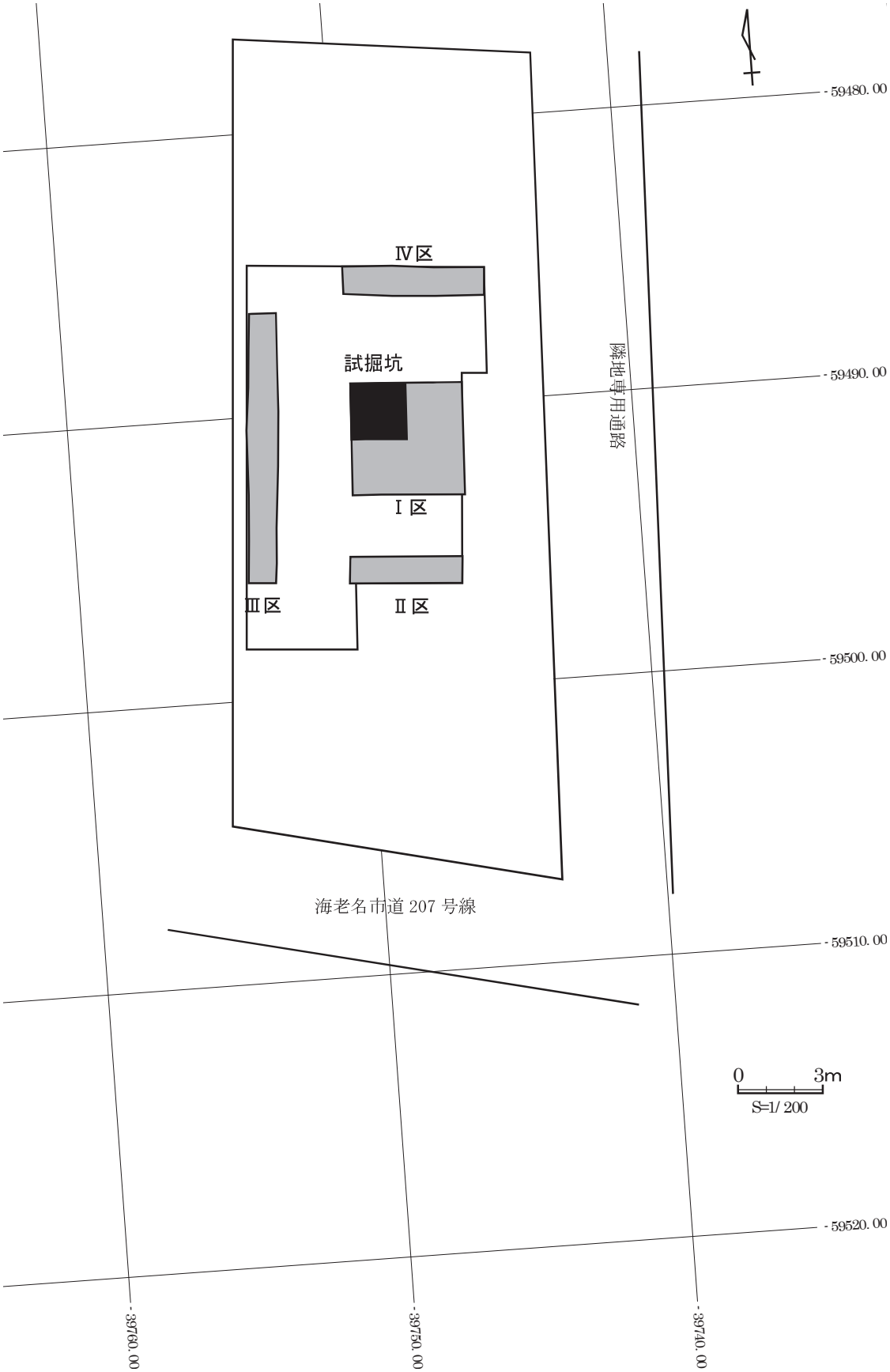
試掘調査の結果から、建物の地盤改良部分について本格調査を実施した。排土の仮置場を確保しながら調査を進め、試掘坑部分の調査範囲を４ｍ×４ｍに拡大しⅠ区とし、Ⅱ区（１ｍ×４ｍ）Ⅲ区（１ｍ×9.5m）、Ⅳ区（１ｍ×５ｍ）を設定し、合計34.5㎡を調査した。

遺構番号は検出段階及び作図段階で付した。遺物は遺物出土状況に応じ、各調査区において遺構、層序ごとに１点ずつないし一括して取り上げた。記録図面作成は手実測と光波測距儀による作図を行った。写真記録はデジタルカメラとフィルムカメラを併用し、遺構確認状況、遺物出土状況、土層堆積状況、完掘状況等を適宜撮影した。

調査経過

平成26年７月２日にⅠ、Ⅱ区の表土を重機により除去、Ⅳ層上面を確認面とし、溝状遺構と土坑、ピットを検出し、覆土除去及び記録作成を行った。７月３日にⅠ、Ⅱ区の調査を終了し、埋め戻しを行うとともに、Ⅲ、Ⅳ区の表土除去を行った。同日から７月８日にかけて竪穴建物跡、ピットの覆土除去及びⅢ区の遺物取り上げ、図面作成等記録作成を行い、７月９日にⅣ区竪穴建物跡の掘り方を掘削、記録作成後、埋め戻しを行い、現地調査を終了した。

出土品の整理は平成26年度中に遺物の洗浄を行い、注記作業を行った。令和３年度後半より、遺物分類、令和４年度に遺構図面整理、報告書作成作業を実施した。このうち一部を除き遺物の実測、トレース、写真撮影については令和４年度に有限会社アルケーリサーチに委託した。



第７図　第49次調査試掘抗、本格調査配置図

第２節　第58次調査の調査方法と経過

試掘調査（第８図、図版４）

試掘調査については、前述のとおり、今回の個人住宅建築計画以前に、隣接宅地の1182番28とあわせ、令和２年５月14、15日に実施した。隣接宅地に№１試掘坑１×４ｍ、本調査地点に№２試掘坑１×４ｍを設定し、計８㎡について遺構の確認を行った。

№１試掘坑では地表面から0.3～0.8ｍまで表土層、以下に中世から近世のⅡ層、弥生から古代のⅢ層があり、Ⅲ層中、Ⅴ層（富士黒色土層）上面で遺構覆土が確認された。遺構は竪穴状の遺構２基で、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土器が表土、遺構覆土から出土した。出土土器の総量は289gである。

№２試掘坑では地表面から0.4～0.9ｍまで表土層、以下中世から近世のⅡ層と弥生から古代のⅢ層が混ざった土層が確認され、その直下で遺構覆土が確認された。遺構は竪穴状の遺構３基とみられ、弥生時代から古墳時代の土器が表土、遺構覆土から出土した。遺構の深度確認のため試掘坑の南東隅をサブトレンチにより掘り下げたところ、覆土には炭化物、焼土が含まれ、約30㎝下でローム交じりの床面とみられる硬化面が確認された。表土、覆土からは、小片であるが弥生時代から古墳時代の土器が表土、遺構覆土から出土した。出土土器の総量は114gである。

なお、1182番28については、その後計画された住宅建築は遺構に影響の及ばないものとなったため、本調査は実施していない。

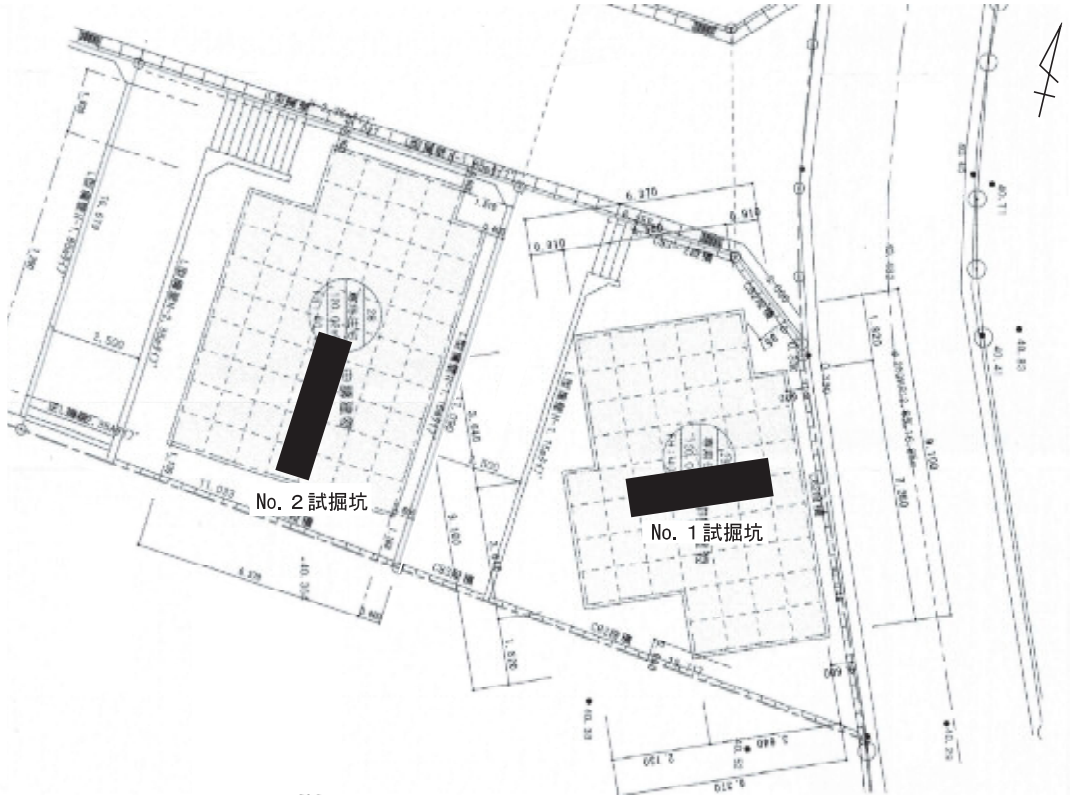
本格調査（第19図）

試掘調査により、№２試掘坑で弥生時代から古墳時代とみられる遺構が確認されていたため、住宅建築により遺構に掘削が及ぶ地盤改良実施部分２ヶ所について本調査を実施することとなった。敷地北側にⅠ区（2.6ｍ×3.8ｍ）、南側にⅡ区（4.7ｍ×2.7ｍ）を設定し、合計22.57㎡を調査した。

遺構番号は検出段階及び作図段階で付した。遺物は遺物出土状況に応じ、各調査区において遺構、層序ごとに１点ずつないし一括して取り上げた。記録図面作成は手実測にて作図を行った。写真記録はデジタルカメラとフィルムカメラを併用し、遺構確認状況、遺物出土状況、土層堆積状況、完掘状況等を適宜撮影した。

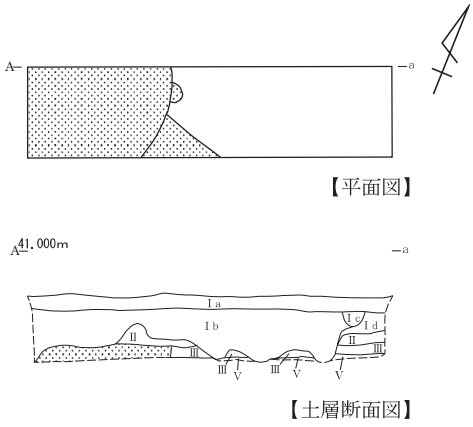
調査経過

令和３年４月23日に調査を開始した。排土の仮置場確保のため、Ⅰ区の調査後にⅡ区を調査することとした。敷地に重機の搬入が不可能であったため、人力により表土掘削を行った。４月26～28日に１号竪穴住居跡の遺構確認を行い、覆土除去と遺物の取り上げを行った。ゴールデンウイーク後の５月６～11日にかけて記録作成を行い、５月12日にⅠ区の埋戻し実施するとともに、Ⅱ区の表土掘削に着手した。５月14日にⅡ区で遺構を確認し、５月17～20日にかけて竪穴住居跡の覆土除去、平断面図など作成、５月24日にⅡ区の全景撮影の後、遺物の取り上げ、図面作成を行い、25日に掘り方、ピット覆土除去、記録図面を作成後、人力により埋め戻しを行い、５月26日に埋め戻しを完了し現地調査を終了した。

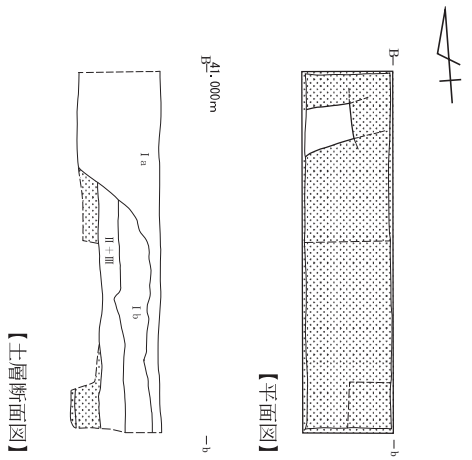


試掘坑位置図

0　4m
(S=1/200)



No. 1試掘坑平面図・土層断面図



No. 2試掘坑平面図・土層断面図

0　2m
(S=1/80)

第８図　第58次調査試掘調査図

出土遺物は令和３年度中に遺物の洗浄、注記を行い、令和４年度に分類、接合、遺構図面整理、報告書作成作業を実施した。このうち遺物の実測、トレース、写真撮影については令和４年度に有限会社アルケーリサーチに委託した。

第４章　基本層序

１．第49次調査（第９図）

地表面から40～65㎝は住宅基礎等の攪乱を含む表土であり、以下に中近世の堆積層とみられるⅡ層が10～35㎝あり、Ⅱ層は場所により欠層する。古代の堆積層とみられる黒色スコリアを多く含むⅢ層黒褐色土が10～35㎝、古墳から弥生時代の堆積層とみられるⅣ層は２層に分層でき、10～25㎝の厚さを持つ。以下Ⅴ層は富士黒色土層であるが、第49次調査地点においては、層厚は確認していない。

２．第58次調査（第９図）

地表面から50～110㎝は造成土および表土であり、Ⅱ区では以下に中近世とみられるⅡ層と古代とみられるⅢ層黒褐色土の混在する層が10～35㎝ある。以下Ⅴ層は富士黒色土層であり60～80㎝の層厚がある。Ⅰ区では３層に細分でき、Ⅰ区攪乱部分の下ではローム漸移層を確認した。

第５章　発見された遺構と遺物

第１節　第49次調査

奈良～平安時代の竪穴建物跡１軒、溝１条、土坑１基、ピット12基、古墳時代後期の竪穴建物跡１軒、ピット２基を確認した。遺構の確認は概ねⅣ層の上面で行った。

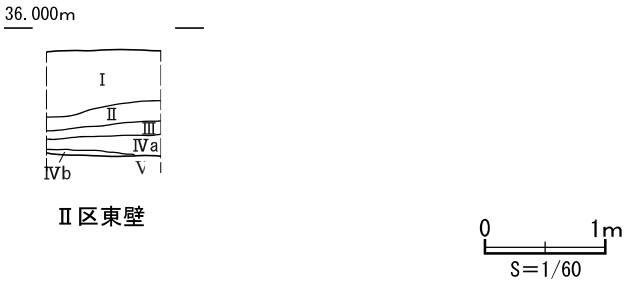
なお、遺構番号は現地での調査順に付し、本報告においてもその番号を踏襲した。

１．奈良～平安時代（第10図）

２号竪穴建物跡（第11～14図、第４表、図版２、３）

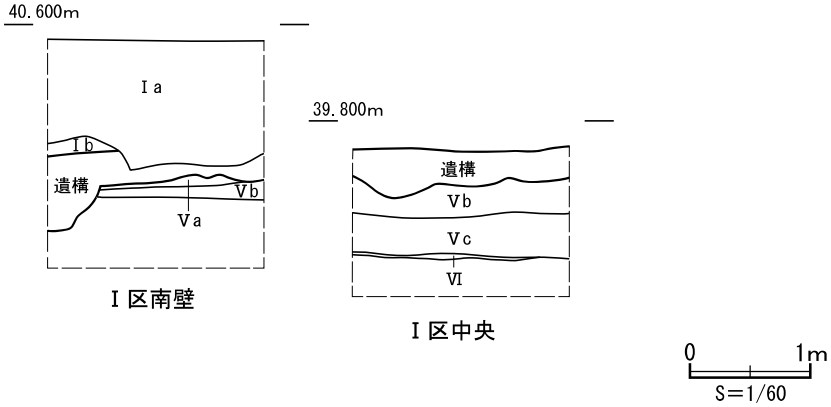
Ⅳ区東側Ⅳ層上面で幅１ｍ、長さ3.5ｍにわたり覆土が確認された。Ⅴ層（富士黒色土層）を掘り込み構築されている。床面までの深さは約50㎝で、東壁の一部を確認できたが、全体規模は不明であり、調査区の南北、東側に展開する。壁溝はなく、床面は叩き締められ、硬化している。覆土は黒褐色土主体で、全体的に焼土が含まれ、特に床面近くで多く認められた。本建物跡には11、14号ピットが重複する。

第 49 次調査



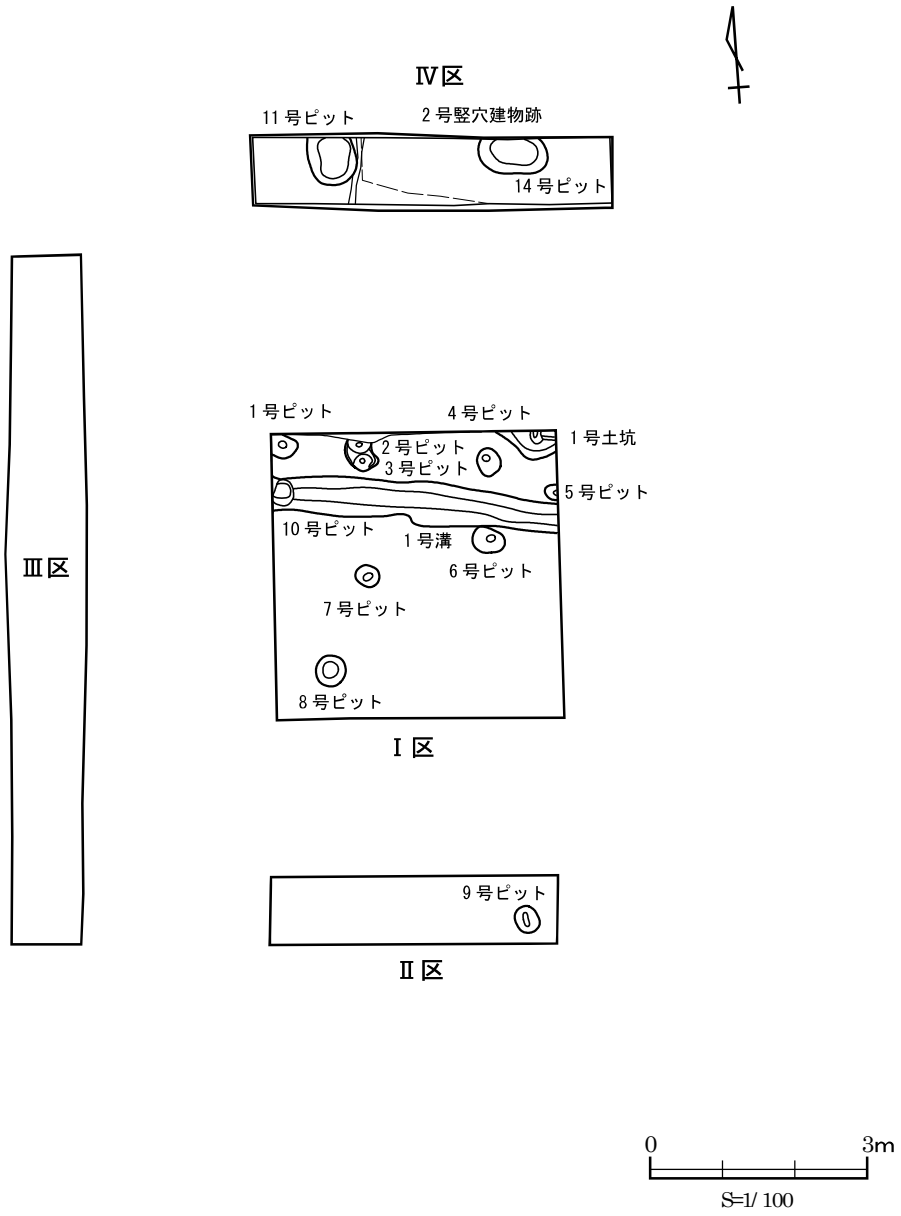
Ⅰ 層　表土
Ⅱ 層　黒褐色土　極小～小の赤色スコリア3%、小の黒色スコリアを5～7%含む。しまりやや疎、粘性標準、やや軟質。
Ⅲ 層　黒褐色土　極小～小の赤色スコリア10%、極小～小の黒色スコリアを5～7%含む。しまり、粘性、硬度ともに標準。
Ⅳa層　黒褐色土　極小の赤色スコリア5～7%、黒色スコリアを3%含む。しまりやや密、粘性、硬度ともに標準。
Ⅳb層　黒褐色土　極小の赤色スコリアを2～3%含む。しまりやや密、粘性強く、やや硬質
Ⅴ 層　黒褐色土　富士黒色土層

第 58 次調査

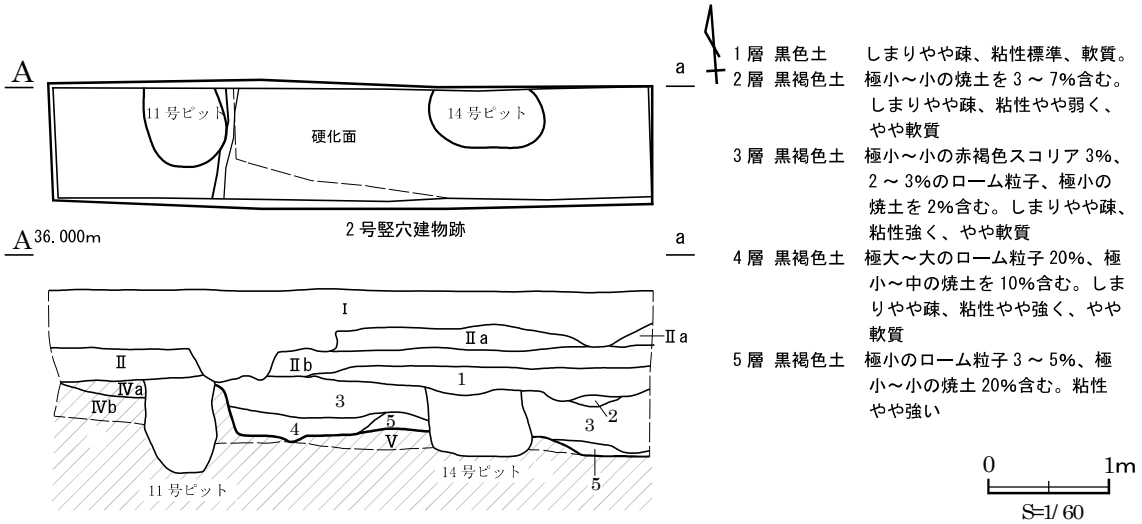


Ⅰa層　撹乱（造成土）
Ⅰb層　撹乱混じり表土
Ⅱ 層　極暗褐色土　中の赤褐色スコリア 5%、中の黄褐色スコリアを 5%含む。しまり、粘性ともにやや弱い。
Ⅲ 層　黒褐色土　　中の赤褐色スコリア 8%、中の黄褐色スコリアを 8%含む。しまり普通、粘性やや弱い。
Ⅴa層　黒色土　　小の赤褐色スコリアを5%含む。しまり、粘性ともにやや強い。
Ⅴb層　黒褐色土　　小の赤褐色スコリアを3%含む。しまり、粘性ともにやや強い。
Ⅴc層　黒褐色土　　小の赤褐色スコリア2%、黄褐色スコリアを1%含む。しまり、粘性ともにやや強い。
Ⅵ 層　ローム漸移層

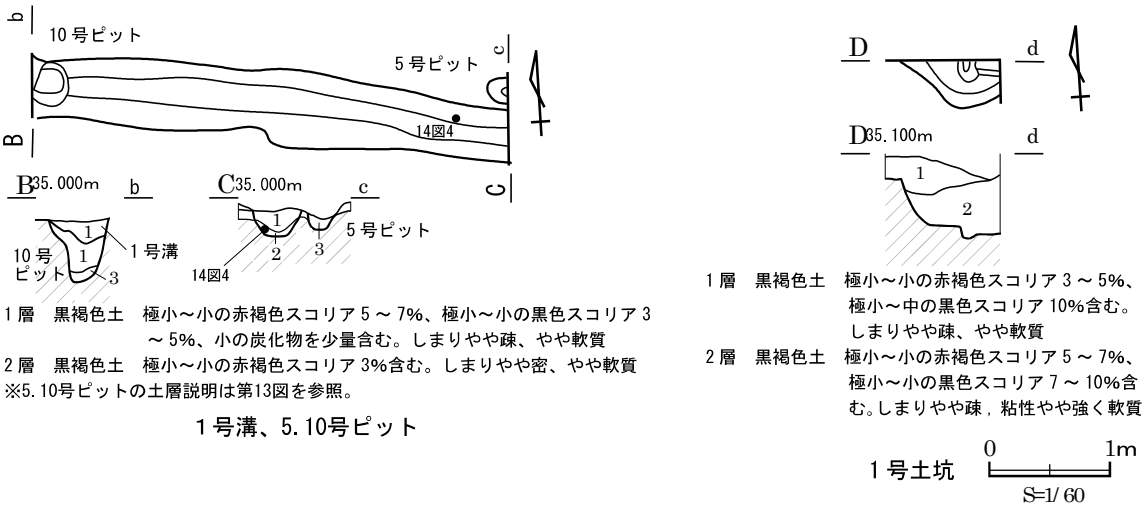
第９図　基本土層



第10図　第49次調査奈良～平安時代遺構全体図



第11図　第49次調査２号竪穴建物跡平断面図



第12図　第49次調査　１号溝、５・10号ピット、１号土坑　平断面図

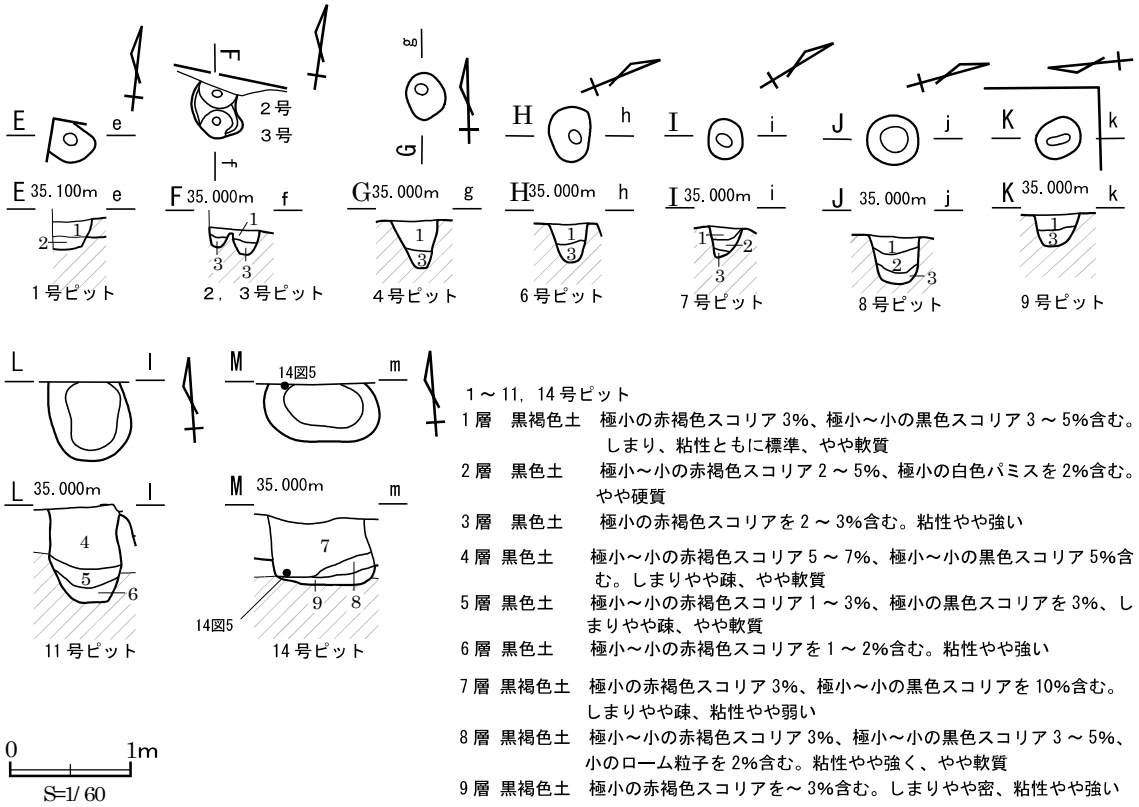
覆土中から出土の遺物総量は土師器148g、弥生～古墳時代土器218gである。土師器杯（１～３）は相模型坏で、１は体部外面に縦２本の刻書がみられる。１、２は口径11.5㎝前後、器高３～3.7㎝を測る。この他に覆土中、掘り方から土師器小片９点、弥生～古墳時代土器18点が出土している。

１号溝（第12、14図、第４表、図版１、３）

Ⅰ区で確認されており、概ね東西方向を向く。上幅は35～60㎝、長さ４ｍ、第Ⅲ層又はⅣ層を掘り込む深さ20㎝ほどの浅い溝である。西側はⅢ区に続くものとみられたが、Ⅲ区では確認できなかった。覆土中から出土の遺物総量は土師器190g、須恵器18g、弥生～古墳時代土器32gであった。相模型の土師器坏（４）は調査区東寄りの覆土下層で出土した。このほか小片のため図化不能であったが、赤色顔料付着の須恵器坏片と礫１点が出土した。

１号土坑（第12図、図版１）

Ⅰ区北東で全体の半分程度が確認されたものとみられる。全容が不明であるため、土坑と



第13図　第49次調査ピット平断面図

したが、柱穴の可能性もある。Ⅳ層上面で確認され、規模は長軸80cm、短軸40cmであり、確認面からの深さは約50cmである。遺物は弥生時代～古墳時代前期の土器小片４点17.7gが出土している。詳細な時期は不明であるが、土層から奈良～平安時代の遺構とみられる。

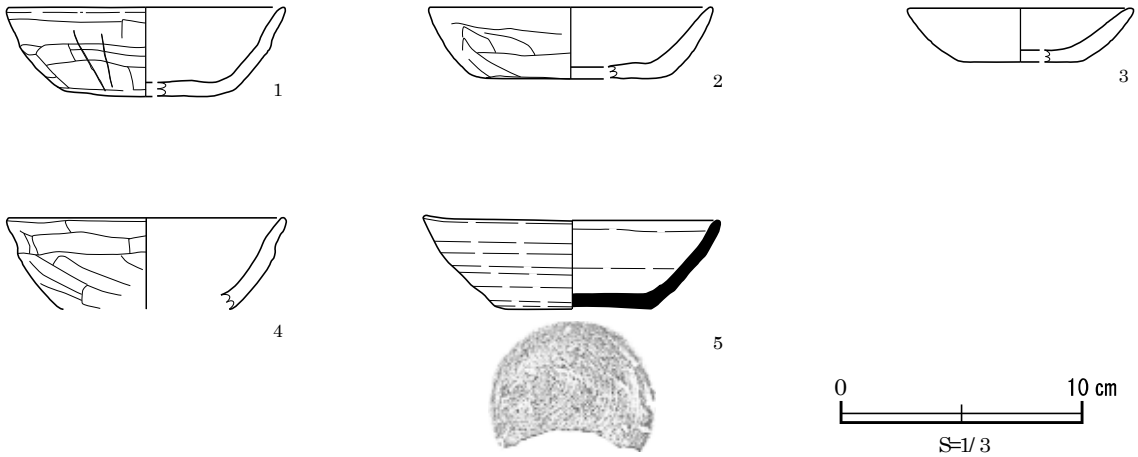
１号～10号ピット（第12～14図、第４表、図版１）

Ⅰ区で９基、Ⅱ区で１基のピットが確認された。径25～50cm、主にⅣ層上面を確認面とし、深さは20～50cmの比較的小規模なものである。１、４、６、７、10号ピットからは遺物が出土している。１号ピットからは弥生～古墳時代土器及び土師器小片３点8.9g、４号ピットからは弥生～古墳時代土器及び土師器小片３点6.5g、６号ピットからは弥生～古墳時代土器及び土師器小片５点38.9g、７号ピットからは弥生～古墳時代土器小片３点20.4g、10号ピットからは弥生～古墳時代土器及び土師器小片４点15.3gがそれぞれ出土している。

土層から、奈良・平安時代の所産と考えられる。

11、14号ピット（第13、14図、第４表、図版２、３）

Ⅳ区Ⅳ層上面で確認されており、２号竪穴建物跡に重複し、特に14号ピットは土層から２号竪穴建物跡廃絶後に掘られたものと判断される。長軸は80～100cm、短軸は60～70cm、確認面からの深さは11号ピットが80cm、14号ピットが50cmを測る。ともに掘立柱建物跡の柱穴の可能性もある。11号ピットからは弥生～古墳時代土器及び土師器小片６点52.5gが出土、14号ピット底面付近からは底部糸切の須恵器坏（５)108gが出土している。



第14図　第49次調査２号竪穴建物跡、１号溝、ピット出土遺物

２．古墳時代（第15図）

１号竪穴建物跡（第16、17図、第５表、図版２、３）

Ⅲ区で部分的に確認した。南北方向に５ｍ以上ある平面方形又は長方形の建物跡で、調査区外の北西側に展開する。Ⅳ層上面で遺構を確認し、確認面から床面までは約50cmを測る。南側の床面に近い覆土中から炭化木片が多数出土した。調査範囲には柱穴は認められず、壁際の周溝についても東壁際が浅くくぼむものの、はっきりとは認められなかった。

覆土中からは東壁際で床面より数cm上で須恵器の高坏蓋（２）が完形で出土したほか、覆土中層等で土師器甕片（４～８）、壺の口縁部と底部片（９、10）が出土している。１の土師器坏、３の須恵器坏は小片で８世紀代のもの、11の甕は弥生～古墳時代の小片で覆土への混入とみられる。

遺物出土総量は土師器1704ｇ、須恵器271g、弥生～古墳時代土器784gである。

12、13号ピット（第16、17図、第５表、図版２、３）

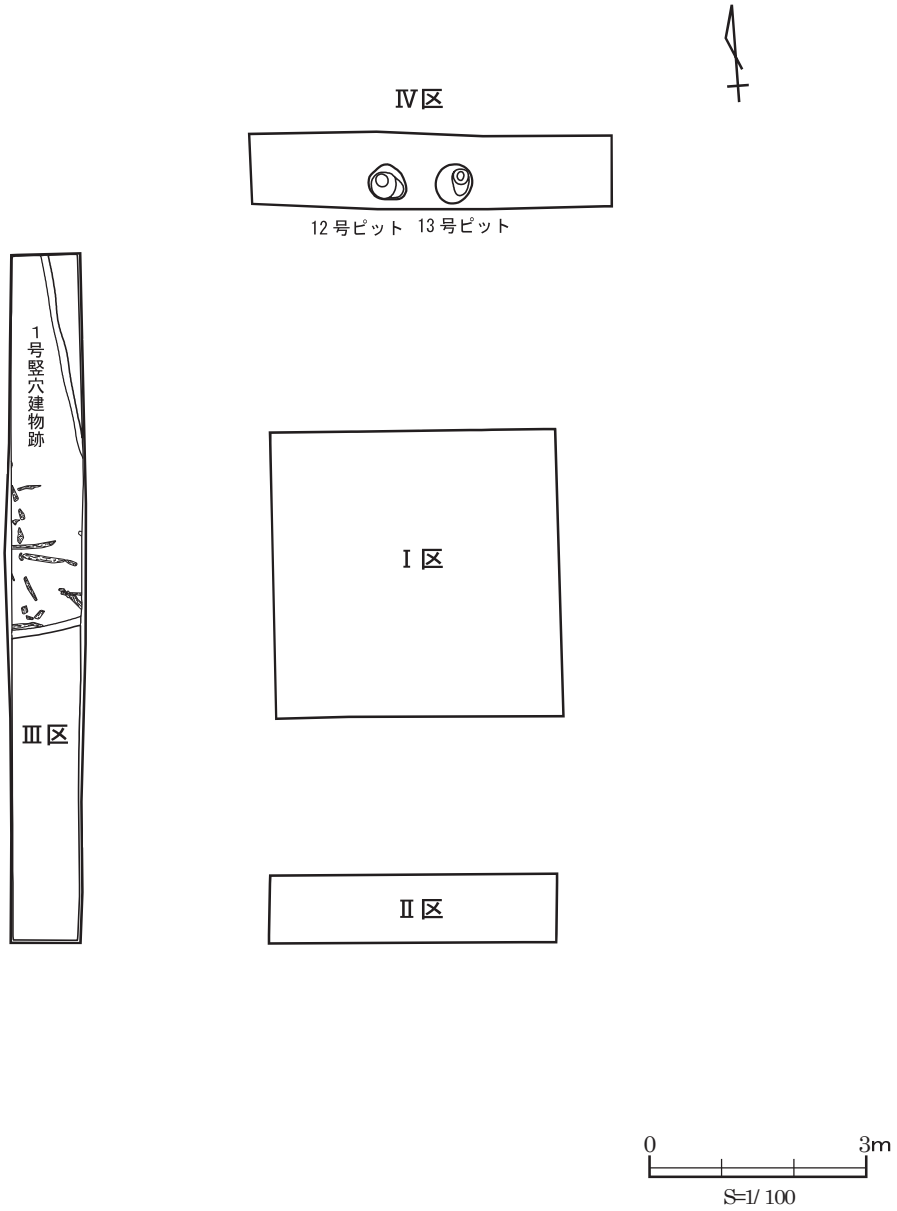
Ⅳ区の２号竪穴建物跡の底面で確認された。ともに径約50cm、深さは30～40cmである。12号ピットからは弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の折り返し口縁の壺口縁部片（12）１点49g、13号ピットからは詳細な時期は不明であるが壺の胴部片１点25gが出土している。

上部に２号竪穴建物跡が重複し、ピット上部は壊されていたため、単独のピットであったのか、住居跡等に伴うものであったかは確認できなかった。

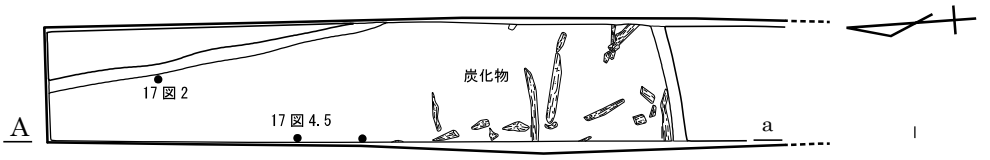
遺構外出土遺物（第17、18図、第５、６表、図版３、４）

Ⅳ区から弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭の壺片（13）、台付甕（14）が出土しているほか、Ⅲ区では石器４点（１～４）が出土している。石器は軽石の砥石状で、いずれもⅢ区の表土及び遺構確認面で出土している。磨痕はあるが、用途は不明である。時期は不明ではあるが、すべてⅢ区から出土しており、１号竪穴建物跡との関連も考えられる。

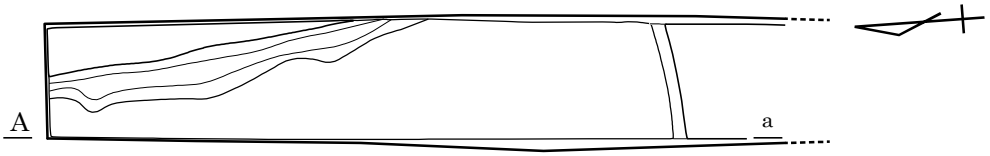
他に小片のため図化しなかったものとして縄文土器28g、弥生～古墳時代土器465g、土師器366g、須恵器６gが出土している。



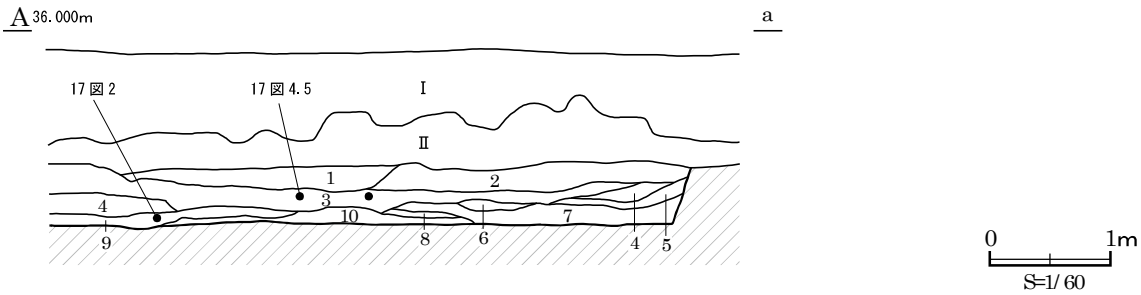
第15図　第49次調査古墳時代遺構全体図



【遺物出土状況】

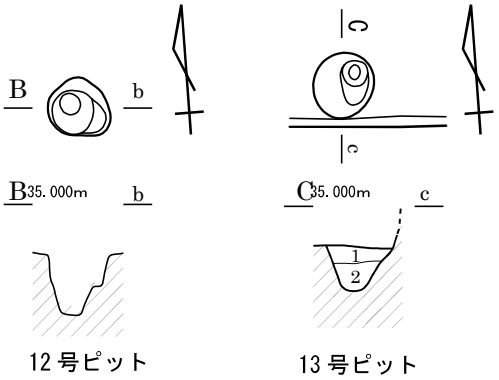


【掘り方】



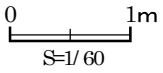
1 層 黒褐色土　極小の赤色スコリア 2%、極小～小の焼土を 10 ～ 15%含む。しまりやや疎、粘性やや強く、非常に軟質
2 層 黒褐色土　極小～小の赤色スコリア 3%、小の黒色スコリアを 2 ～ 5%含む。しまりやや疎、粘性標準、やや軟質～標準
3 層 黒褐色土　極小の赤褐色スコリア 2 ～ 3%、極小の黒色スコリアを 15 ～ 20%含む。しまりやや疎、粘性標準、やや軟質
4 層 黒色土　極小の赤褐色スコリア 2 ～ 3%、極小～小の黒色スコリア 2 ～ 3%、焼土を 1 ～ 2%含む。しまりやや疎
5 層 黒色土　極小～小の赤褐色スコリア 3%、極小～小の黒色スコリア 2%、極小～小の焼土を 3 ～ 5%含む
6 層 黒褐色土　極小～小の赤褐色スコリア 2 ～ 5%、極小～小のローム粒子を 3 ～ 5%含む。しまり標準、粘性やや強く、やや軟質
7 層 黒褐色土　極小の赤褐色スコリア 3%、焼土 5 ～ 10%、極大～大の炭化物 20%、炭化材を多く含む。しまり標準、粘性やや強い
8 層 黒色土　焼土 40%、炭化物を 15%含む。しまりやや疎、粘性やや強い
9 層 黒色土　極小～大のローム粒子 10%、焼土 7%、炭化物を 5%含む。8 層＋ロームブロック層
10 層 黒色土

1 号竪穴建物跡

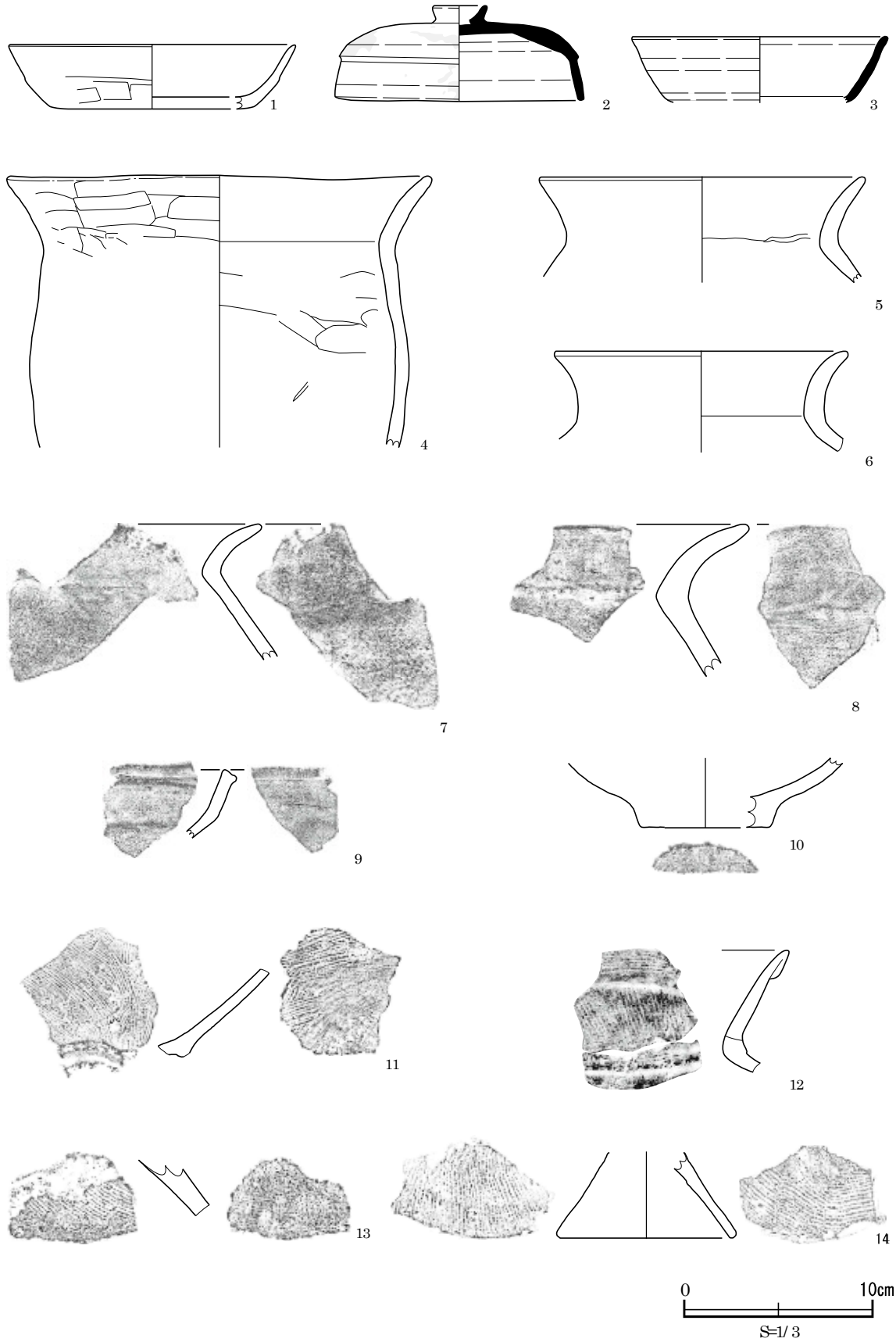


12 号ピット　13 号ピット

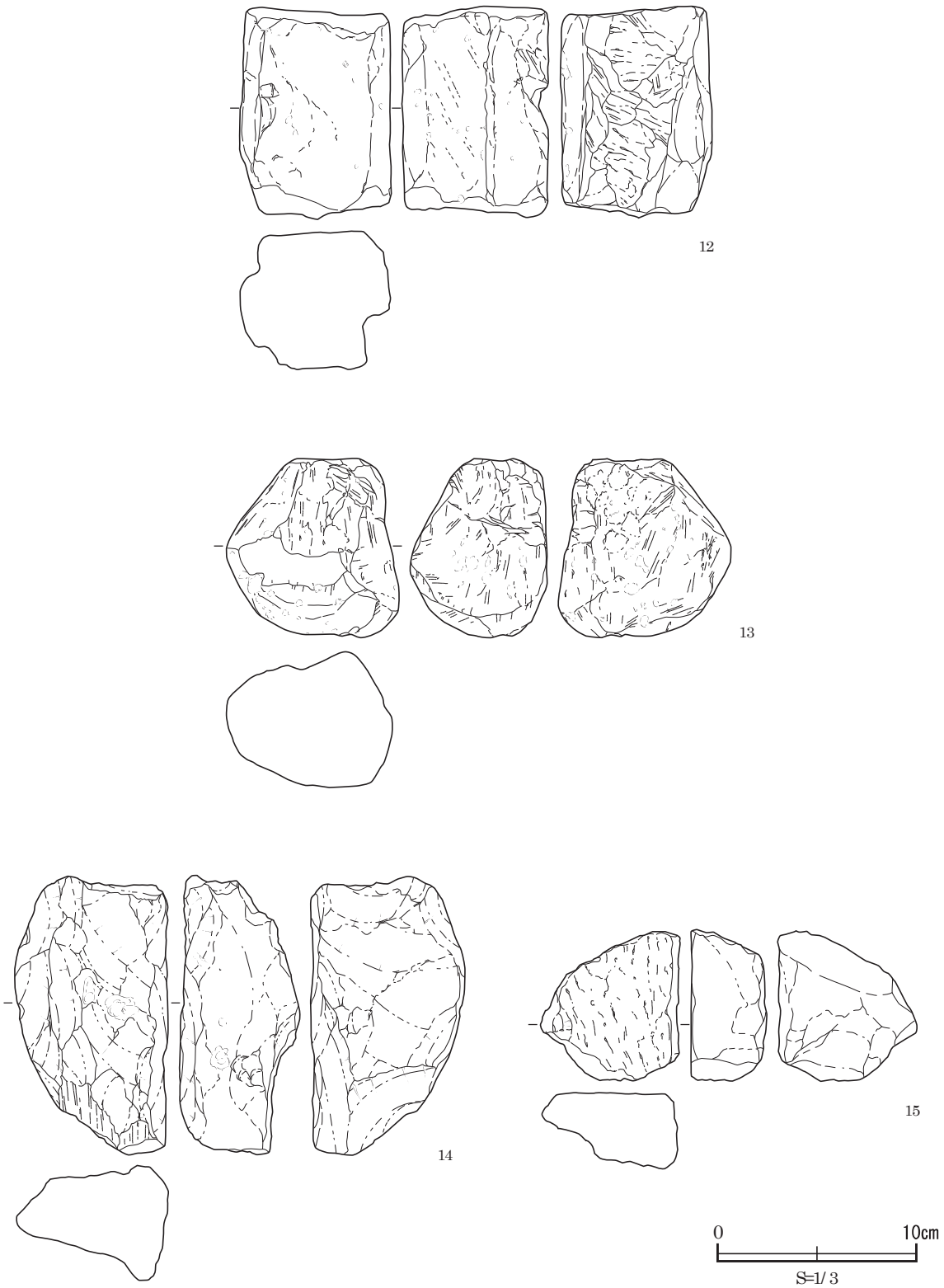
1 層 黒褐色土　極小～小の赤褐色スコリア 3%、極小～小の黒色スコリア 3 ～ 5%、小のローム粒子を 2%含む。粘性やや強く、やや軟質
2 層 黒褐色土　極小の赤褐色スコリア 2%、小～中のローム粒子を 7 ～ 10%含む。粘性やや強い



第16図　第49次調査古墳時代遺構平断面図



第17図　第49次調査古墳時代出土土器



第18図　第49次調査古墳時代出土石器

第４表　第49次調査２号竪穴建物跡、１号溝、ピット出土土器観察表

（　）内数値は口径・底径が復元径、器高は現存高、単位cm

14図１	土師器 坏	法量 口径(11.6)　器高(3.7)　底径(6.8)　現存率 1/4　調整　外面：横位ナデ・篦削り　内面：横位ナデ 底面：篦削り　胎土 白色粒子、赤色粒子、砂粒、小礫　焼成 良好　色調 外：　内：出土位置　２号竪穴建物跡（Ⅳ区一括）
14図２	土師器 坏	法量 口径(11.8)　器高(3.0)　底径(8.0)　現存率 1/4　調整　外面：横位ナデ・篦削り　内面：横位ナデ 底面：篦削り　胎土 白色粒子、赤色粒子、砂粒　焼成 良好　色調 外：浅黄橙色　内：にぶい橙色　出土位置　２号竪穴建物跡（Ⅳ区一括）
14図３	土師器 坏	法量 口径(9.4)　器高(2.2)　底径(5.2)　現存率 小片　調整　外面：横位ナデ・篦削り　内面：横位ナデ　底面：篦削り　胎土 白色粒子、砂粒、小礫　焼成 良好　色調 外：浅黄橙色　内：浅黄橙色　出土位置　２号竪穴建物跡（Ⅳ区一括）
14図４	土師器 坏	法量 口径(11.6)　器高(3.8)　現存率 小片　調整　外面：横位ナデ・右下がり篦削り　内面：横位ナデ 胎土 白色粒子、赤色粒子、砂粒、小礫　焼成 良好　色調 外：淡橙色　内：橙色　出土位置　１号溝（Ⅰ区SD－１Ｐ１）
14図５	須恵器 坏	法量 口径 12.4　器高 3.9　現存率 ２／３　調整　外面：ロクロ成形　底面：回転　胎土 白色粒子、砂粒、小礫　焼成 良好　色調 外：灰色　内：灰色　出土位置 14号ピット（Ⅰ区SP－14　Ｐ１）

第５表　第49次調査１号竪穴建物跡12号ピット出土土器、遺構外出土土器観察表

（　）内数値は口径・底径が復元径、器高は現存高、単位cm

17図１	土師器 坏	法量 口径(15.2)　器高(3.4)　底径(10.8)　現存率 小片　調整　外面：横位ナデ・篦削り　内面：横位ナデ　底面：篦削り　胎土 白色粒子、砂粒　焼成 良好　色調　外：橙色　内：橙色　出土位置 Ⅲ区確認面
17図２	須恵器 高坏蓋	法量 口径 13.2　器高 5.1　つまみ部 2.8　現存率 完形　調整　外面：ロクロ成形　胎土 白色粒子、砂粒、小礫　焼成 良好　色調　外：緑灰色　内：灰色　出土位置　１号竪穴建物（Ⅲ区　SI－１Ｐ－１）　備考 TK47～MT15併行
17図３	須恵器 坏	法量 口径(13.6)　器高(3.5)　現存率 小片　調整　外面：ロクロ成形　胎土 骨針状物質、白色粒子、砂粒、小礫　焼成 良好　色調　外：灰白色　内：灰白色　出土位置 １号竪穴建物（Ⅲ区SI－１覆土）
17図４	土師器 甕	法量 口径(22.6)　現存高(14.5)　現存率 口縁部～体部片　調整　外面：口縁部～頸部横位ナデ　内面：横位ナデ　胎土 白色粒子、赤色粒子、黒色粒子、砂粒、小礫　焼成 良好　色調　外：にぶい黄褐色 内：黄褐色　出土位置 １号竪穴建物（Ⅲ区SI－１Ｐ－２）
17図５	土師器 甕	法量 口径(17.4)　現存高(5.6)　現存率 口縁部片　調整　外面：横位ナデ　内面：横位ナデ　胎土 白色粒子、砂粒　焼成 良好　色調　外：にぶい黄橙色　内：明黄褐色　出土位置 １号竪穴建物（Ⅲ区SI－１Ｐ－２）
17図６	土師器 甕	法量 口径(15.6)　現存高(5.3)　現存率 小片　調整　外面：横位ナデ・篦削り　内面：横位ナデ　胎土 白色粒子、砂粒　焼成 良好　色調　外：橙色　内：にぶい黄褐色　出土位置 １号竪穴建物（Ⅲ区SI－１一括）
17図７	甕	法量 現存高(7.2)　現存率 小片　調整　外面：横位ナデ　内面：横位ナデ　胎土 白色粒子、黒色粒子、砂粒　焼成 良好　色調　外：にぶい黄橙色　内：にぶい黄褐色　出土位置１号竪穴建物（Ⅲ区SI－１覆土）　備考 胴部内面に赤彩か
17図８	土師器 甕	法量 現存高(5.0)　現存率 小片　調整　外面：横位ナデ　内面：横位ナデ　胎土 白色粒子、砂粒　焼成 良好　色調　外：明赤褐色　内：明褐色　出土位置Ⅲ区確認面
17図９	壺	法量 現存高(3.3)　現存率 小片　調整　外面：横位ナデ・刷毛　内面：横位ナデ　胎土 白色粒子、黒色粒子、砂粒　焼成 良好　色調　外：にぶい黄橙色　内：にぶい橙色　出土位置 １号竪穴建物（Ⅲ区SI－１一括）
17図10	壺	法量 現存高(3.7)　底径(6.8)　現存率 小片　調整 外面：横位・縦位ナデ・横位磨き　内面：横位ナデ・工具痕　底面：ナデ　胎土 白色粒子、赤色粒子、黒色粒子、砂粒、小礫　焼成 良好　色調　外：暗褐色 内：暗褐色　出土位置１号竪穴建物（Ⅲ区SI－１覆土）
17図11	甕	法量 現存高(4.6)　現存率 小片　調整 外面：縦位・右下がり刷毛　内面：横位刷毛・横位・左下がり磨き　胎土 白色粒子、黒色粒子、砂粒　焼成 良好　色調　外：にぶい黄褐色　内：オリーブ黒色　出土位置 １号竪穴建物（Ⅲ区SI－１一括）
17図12	壺	法量 現存高（６.５）　現存率 小片　調整　外面：横位刷毛・縦位・右下がり刷毛・横位ナデ・縦位・右下がり刷毛　内面：横位刷毛→磨き　胎土 白色粒子、赤色粒子、砂粒　焼成 良好　色調　外：にぶい黄橙色　内：にぶい橙色　出土位置 12号ピット（Ⅳ区SP－12）
17図13	台付甕	法量 脚台径(9.6)　器高(4.5)　現存率 1/4　調整 外面：縦位刷毛　内面：横位刷毛・ナデ　胎土 白色粒子、赤色粒子、黒色粒子、砂粒、小礫　焼成 良好　色調　外：褐色　内：にぶい黄褐色　出土位置 Ⅳ区一括
17図14	壺	現存率 1/12以下　調整　外面：横位ナデ　内面：横位刷毛・ナデ　胎土 白色粒子、赤色粒子、黒色粒子、砂粒、小礫　焼成 良好　色調　外：浅黄橙色　内：灰白色　出土位置 Ⅳ区一括

第６表　第49次調査出土石器観察表

単位cm

18図１	砥石	石材 軽石　長さ 10.7　幅 73.6　厚さ 74.1　重量 244.60g　出土位置 Ⅲ区表土 備考 断片/左面以外ほぼ全面が磨痕面に覆われている
18図２	砥石	石材 軽石　長さ 9.0　幅 8.7　厚さ 6.9　重量 84.50g　出土位置 Ⅲ区確認面 備考 完形/下面以外ほぼ全面が磨痕面に覆われている
18図３	砥石	石材 軽石　長さ 14.5　幅 7.7　厚さ 6.1　重量 173.00g　出土位置 Ⅲ区確認面 備考 断片/凹みが少なくとも正面に１ヶ所、右面に２ヶ所あり
18図４	砥石	石材 軽石　長さ 7.5　幅 7.1　厚さ 3.8　重量 54.50g　出土位置 Ⅲ区表土 備考 断片/正面に顕著な磨痕あり

第２節　第58次調査

Ⅰ区、Ⅱ区から各１軒ずつ、２軒の竪穴住居跡が確認された。Ⅴ層（富士黒色土）上面で遺構を確認した。

１．弥生～古墳時代（第19図）

１号竪穴住居跡（第20、21図、第７表、図版５、７）

Ⅰ区の表土を除去したところ、調査区西側の標高39.5～39.6ｍで遺構覆土を確認した。しかし上面が造成土であり、覆土は10㎝程度しか残存しない部分もあり、北西側約２ｍ四方はローム層まで大きく攪乱され、残存状態は悪い。壁は緩やかな立ち上がりとなっている。南側のⅡ区に本住居跡の覆土は認められず、主に北、西側に展開するものとみられる。平面形は不明であるが、楕円方形又は方形が想定される。

覆土は黒褐色土を主体とし、厚さ10～30㎝、床面の硬化は明瞭ではなく、浅いピット状の落ち込みがみられる。南西角に認められたＰ４は床面から掘りこまれ、深さ35㎝を測る。

覆土中から出土した遺物のうち17点を平面地点、高さを計測して取り上げた。うち図化できたものは、ほぼ完形で出土した１の小型鉢１点である。覆土中からの出土遺物は、弥生土器壺、甕で総量999ｇであった。

２号竪穴住居跡（第22、23図、第７表、図版５～７）

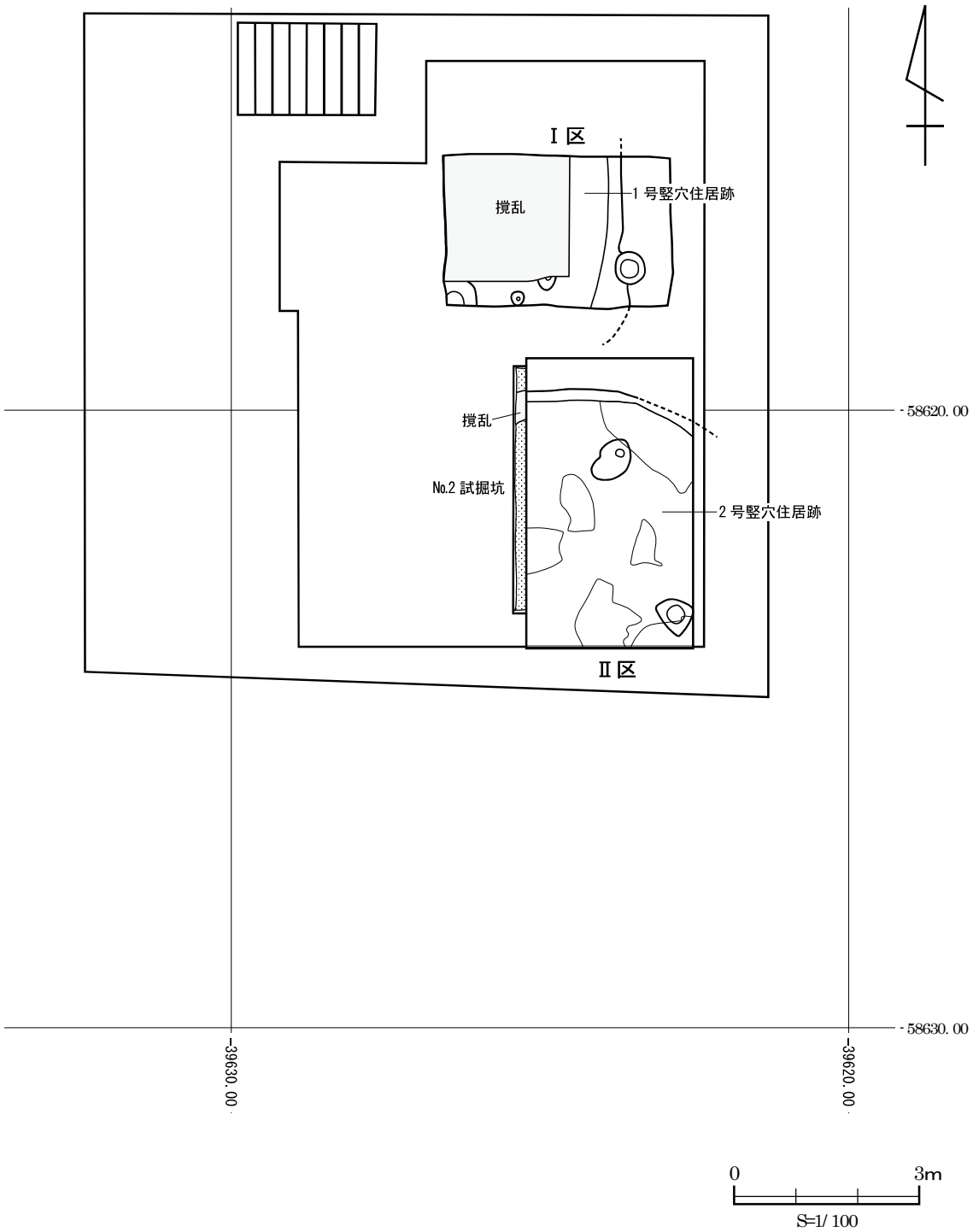
Ⅱ区の表土を除去し、地表下80～100㎝、標高約39.6ｍでプラン、覆土を確認した。調査区北側は床面付近まで造成により削平され、壁高は計測できない。確認面から床面までの覆土は20～40㎝で黒褐色土を主体とし、炭化物を多く含む焼土混じりで、一部には焼土が塊状となって堆積が認められた。特に床面近くでは焼土、炭化物が多く、土器の出土も多く認められた。周溝はなく、床面精査によりピット２基が認められた。炉址は認められなかった。床面は壁際を除き硬化が認められ、床下には20～30㎝の掘り方が認められた。竪穴住居跡の一部を調査したのみであるが、長軸を北西－南東又は北東－南西とする楕円形又は胴張の楕円方形を呈するものと考えられる。

遺物の出土は主に床面直上から焼土中に多く認められた。このうち40点を平面地点、高さを計測して取り上げ、うち４点が接合、図化できたものは５点である。３は壺の口縁から肩部で頸部直下に縄文とＳ字結節縄文が１段施文される。２は大型の壺胴部で最大径を胴部半ばに持つ。４は高坏の坏部から脚部であり、杯部はやや深い。５は台付甕の脚部である。６は覆土中層から出土した。上端部に不明瞭ながら敲打痕が認められる。

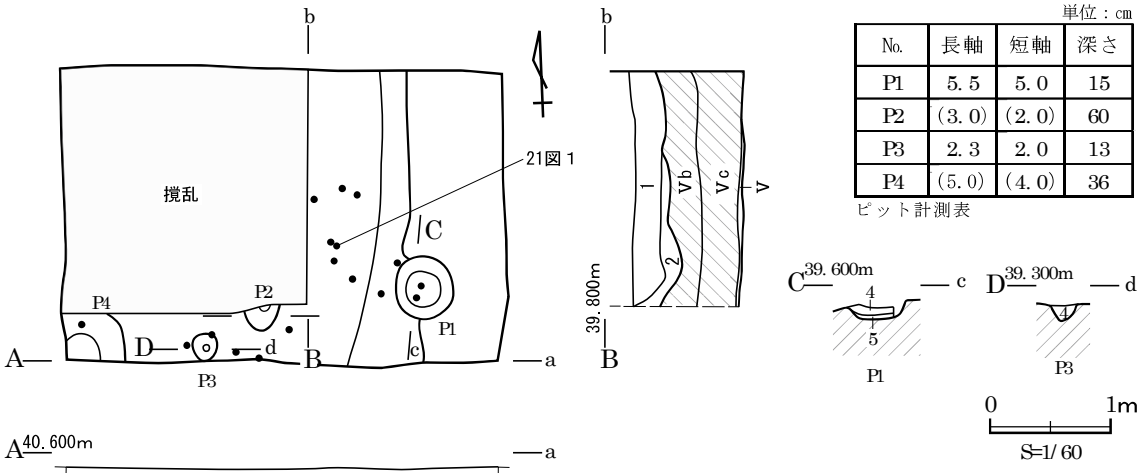
覆土中からの出土遺物総量は、弥生土器壺、甕、高坏で4592ｇである。

遺構外出土遺物

Ⅰ区では表土、攪乱土中等遺構外から弥生土器17点101.2ｇ、陶磁器１点6.4ｇ、Ⅱ区では表土、攪乱土中等から弥生土器62点354ｇ、陶磁器２点22ｇが出土しているが、小片で図化できるものはなかった。



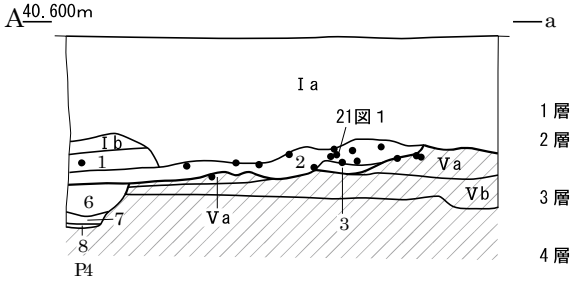
第19図　第58次調査遺構全体図



単位：cm

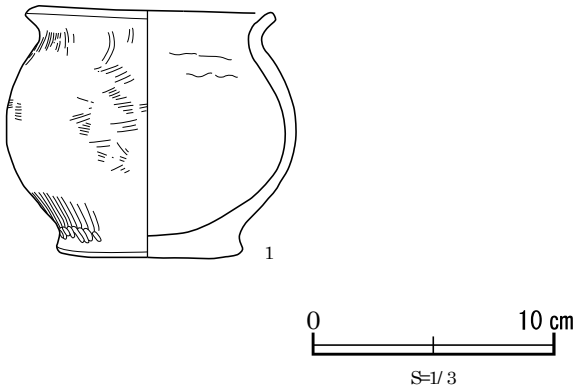
No.	長軸	短軸	深さ
P1	5.5	5.0	15
P2	(3.0)	(2.0)	60
P3	2.3	2.0	13
P4	(5.0)	(4.0)	36

ピット計測表

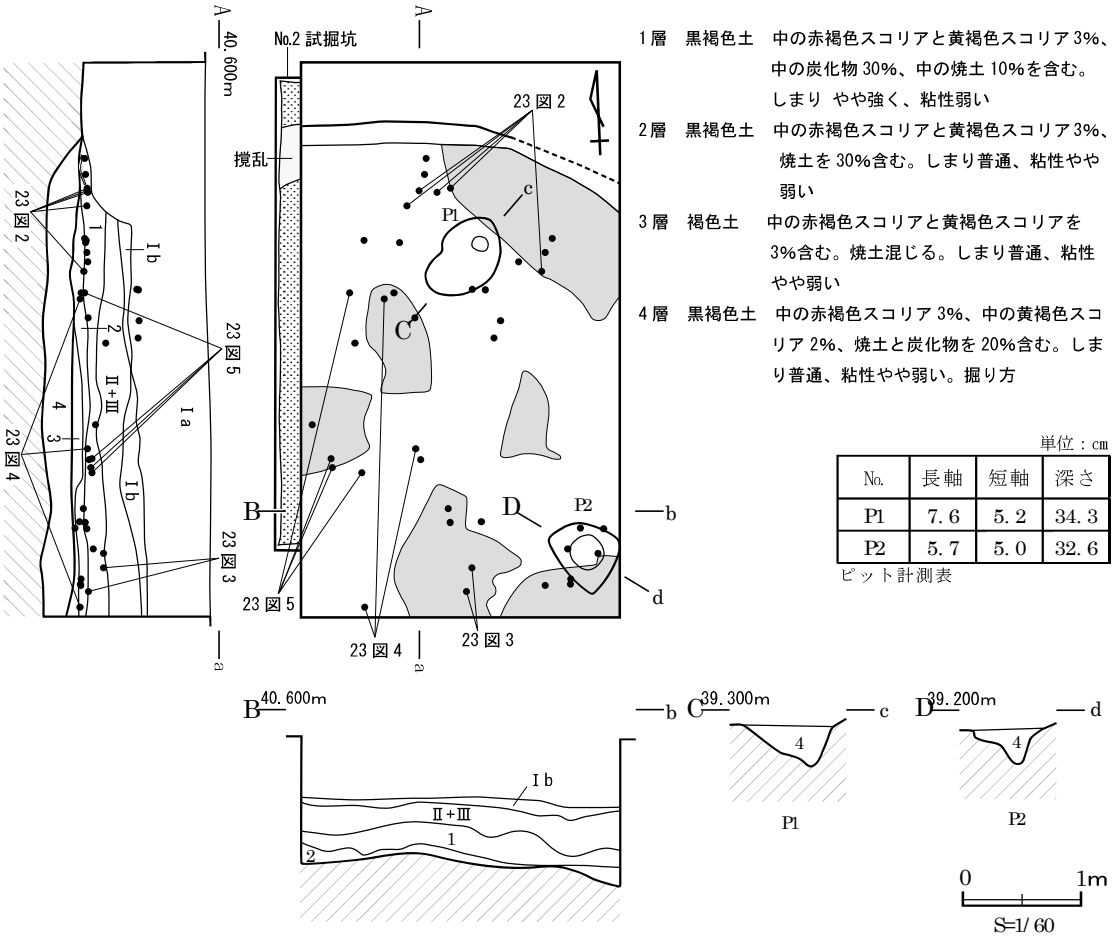


1層　黒褐色土　小の赤色スコリアを8%含む。しまり、粘性ともに弱い。
2層　黒色土　極小の赤褐色スコリアと黄褐色スコリアを8%含む。しまり、粘性ともに普通
3層　黒褐色土　極小の赤褐色スコリア8%、極小の黄褐色スコリアを5%含む。しまり普通、粘性やや強い
4層　黒褐色土　小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各1%含む。しまり、粘性とも普通
5層　黒褐色土　小の黄褐色スコリア1%含む。粘性やや強い
6層　黒褐色土　極小の赤褐色スコリア3%、小の黄褐色スコリアを3%含む。しまり、粘性ともに普通。P4
7層　黒褐色土　極小の赤褐色スコリアを1%含む。しまり、粘性ともに普通。P4
8層　黒褐色土　極小の赤褐色スコリアを1%含む。しまり、粘性ともに普通。P4

第20図　第58次調査１号竪穴住居跡平断面図



第21図　第58次調査１号竪穴住居跡出土土器



№.	長軸	短軸	深さ
P1	7.6	5.2	34.3
P2	5.7	5.0	32.6

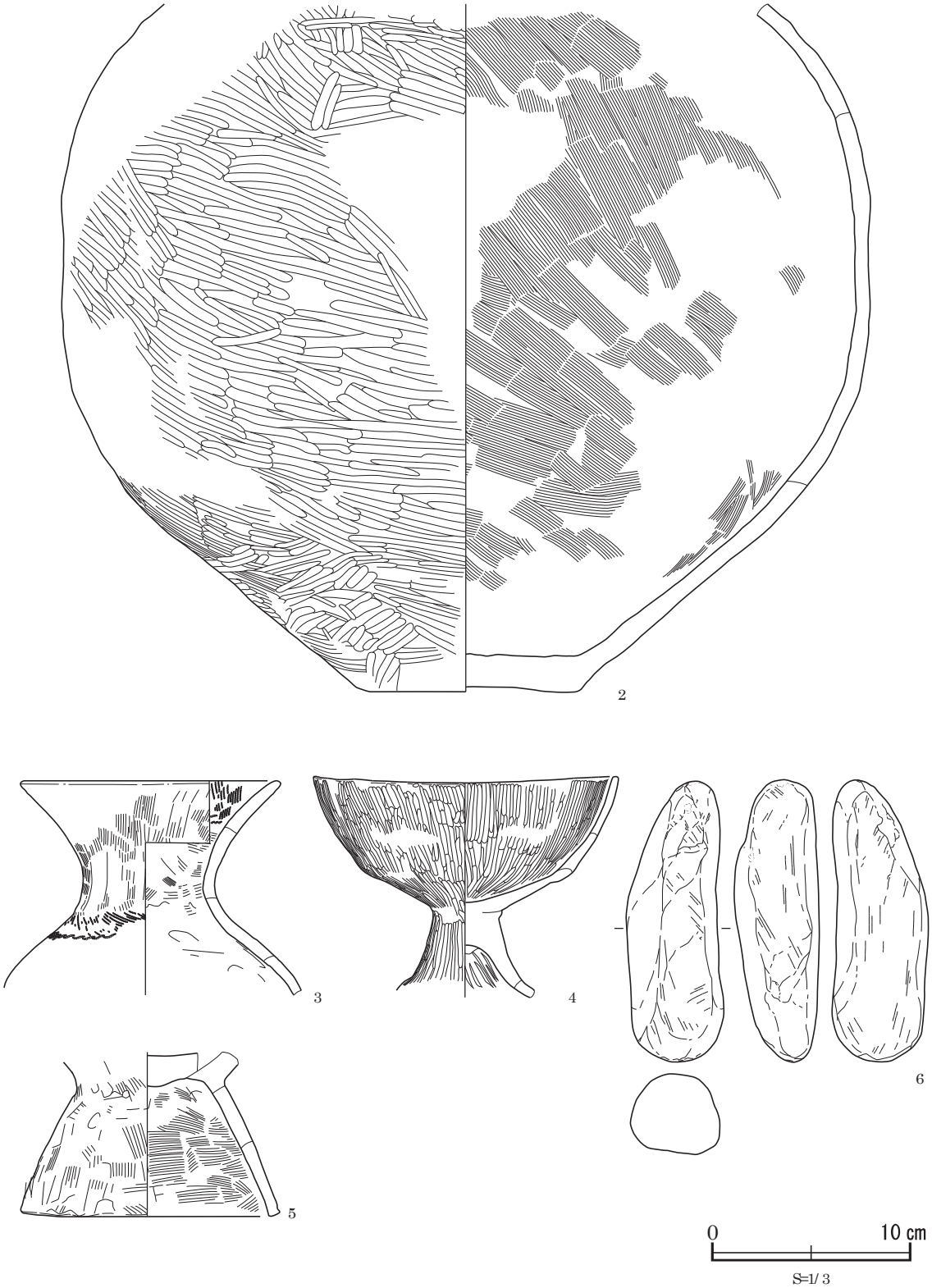
ピット計測表

第22図　第58次調査２号竪穴住居跡平断面図

第７表　第58次調査１、２号竪穴住居跡出土遺物観察表

（　）内数値は口径・底径が復元径、器高は現存高、単位cm

21図1	小形鉢	法量　口径(10.4)　底径7.7　器高10.5　現存率2/3　調整 外面：口縁端面 横位ナデ　口縁部～頸部縦位刷毛後、一部横位ナデ　横位刷毛後、縦位ナデ 胴部下位　縦位篦磨き整 内面：横位ナデ　底面：ナデ調整　胎土：白色粒子、赤色粒子、黒色粒子、砂粒 焼成：良好　色調 外： にぶい黄橙 内：にぶい黄橙 出土位置　１号竪穴住居跡（Ⅰ区１住No.１）
23図2	壺	法量　底径(11.0)　器高(34.8)　現存率底部～胴部片1/4　調整 外面：横位・右下がり篦磨き 胴部下位の一部、左下がり篦磨き 内面：右下がり刷毛　胴部下位 横位ナデ 胎土：白色粒子、赤色粒子、黒色粒子、砂粒、小礫　焼成：良好　色調 外： 浅黄橙 内：橙　出土位置 ２号竪穴住居跡（Ⅱ区２住No.25･26・27･29・34）
23図3	壺	法量　口径(13.2)　器高(10.8)　現存率口縁～肩部片　調整 外面：口縁部～頸部縦位刷毛後、一部縦位篦磨き　胴部不明(摩擦のため) 内面：頸部 横位刷毛・ナデ 肩部 ナデ(指頭)　文様：外面肩部・内面口縁部 単接縄文RL横位１段・無節縄文LのS字状結節文S横位１段　胎土：白色粒子、黒色粒子、砂粒　焼成：良好 色調 外： にぶい褐 内：にぶい橙　出土位置 ２号竪穴住居跡（Ⅱ区２住No.8･17）
23図4	高坏	法量　口径(15.4)　器高(11.2)　現存率脚台部1/2　調整 外面：縦位篦磨き 内面：口縁部～杯部縦位篦磨き　脚台部 縦位ナデ　胎土：白色粒子、赤色粒子、黒色粒子、砂粒、小礫　焼成：良好　色調 外： にぶい橙 内：浅黄橙　出土位置 ２号竪穴住居跡（Ⅱ区２住No.21･33・37）
23図5	台付甕	法量　脚台径(13.2)　器高(8.3)　現存率1/2　調整 外面：縦位刷毛・ナデ 内面：横位刷毛・ナデ　胎土：白色粒子、赤色粒子、黒色粒子、砂粒、小礫 焼成：良好　色調 外： 灰黄 内：にぶい黄橙　出土位置 ２号竪穴住居跡（Ⅱ区２住No.1･2・36･40）
23図6	敲石	石材：砂岩　長さ：14.2　幅：49.7　厚さ：43.4　重量：469.7g　出土位置：Ⅱ区 ２住No.14　備考　完形／上端部に敲打痕



第23図　第58次調査２号竪穴住居跡出土遺物

第６章　まとめ

今回の調査では、第49次調査で奈良～平安時代、古墳時代の遺構と遺物、第58次調査では弥生～古墳時代の遺構と遺物が確認された。

第49次調査で確認された２号竪穴建物跡は遺構のごく一部の調査であるが、出土した土師器坏の器形から９世紀前半の所産と考えられる。重複する14号ピット出土の須恵器坏も９世紀第１四半期頃とみられ、出土遺物からは大きな時期差はみられないようである。１号溝については出土した遺物は少なく、時期を特定することは難しいが、浅いながらも何等かの区画を示すものであった可能性がある。本調査区の東側で実施されている第１、39、41、50次調査においても奈良～平安時代の東西方向の溝が確認されており、東西に250m以上も続く溝となる可能性がある。

１号竪穴建物跡についても遺構のごく一部を調査したのみである。出土した須恵器坏蓋は、ツマミ部が内側にへこむ有段のもので、有蓋高坏の蓋と判断される。海老名市域では中野桜野遺跡古墳時代31号土坑で大量の土師器坏、埦、須恵器坏、高坏が出土しており、陶邑TK47型式とされる須恵器高坏蓋１点がほぼ完形で出土している。同31号土坑は祭祀関連の遺構の可能性が想定されている。須恵器高坏（蓋）の出土事例は相模地域では類例に乏しく、静岡県内ほか関東東海地方の事例では古墳供献土器にみられる。１号竪穴建物跡出土の高坏蓋は器形からTK47～MT15様式併行期、５世紀末から６世紀前葉のものとみられ、覆土から出土している甕とも齟齬はないものとみられ、１号竪穴建物跡の時期を示すものと思われる。海老名市域では当該時期の集落は少ないが、相模国分寺跡主要伽藍の北側で調査事例があるほか、最近では河原口坊中遺跡においても同時期の遺構の存在が明らかとなってきている(註)。本調査地点の周辺では、今回の調査地点から100mほど東の第５、８、50次調査で５世紀後半から６世紀前葉とみられる竪穴建物跡が数軒確認されており、本遺跡の中でも、国道246号線バイパス南側一帯に古墳時代後期初頭の集落が存することが明らかとなった。

第58次調査地点では、22.57㎡の狭い調査範囲から竪穴住居跡２軒が確認された。２号竪穴住居跡からは、壺、甕、高坏が出土しており、相模川流域の在地化が進んだ相模Ⅴ-４（伊丹ほか2002）段階相当、弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけてのものと考えられる。第２号竪穴住居跡の遺物出土状況は、床面近くで焼土、炭化物とともに土器が割れた状態で出土しており、住居の廃絶過程での焼失又は焼失廃材などが投棄された可能性が考えられる。１号竪穴住居跡については、図化できなかった土器が多く、明瞭ではないが、出土した小型鉢から２号竪穴住居跡との時期差はあまりないものと思われる。

北側に隣接する52次調査では弥生時代中期後半から古墳時代初頭にかけての住居跡が多数調査されており、南側の54次調査でも弥生時代中期後半の環濠集落と墓域、弥生時代後期前半の集落跡が確認されている。弥生時代中期後半以降、古墳時代初頭にかけて当台地の崖線近くが居住地の一つとして選択されていたものと思われる。地形的には異なる相模川自然堤防上の河原口坊中遺跡等との関係、相違についても注目されるところである。

以上、これまで60次以上の調査を重ねている国分尼寺北方遺跡であるが、遺跡の時代や特徴についてさらなる調査成果を得ることができた。

註　河合英夫氏のご教示による。

参考文献

≪国分尼寺北方遺跡調査関係≫

1　近藤英夫　1986『尼寺遺跡－地下式壙の調査－』尼寺遺跡調査団
2　三木弘　2022『国分尼寺北方遺跡－昭和63年発掘調査の報告－』海老名市国分字尼寺所在遺跡調査団
3　林原利明　1989『相模国分尼寺関連遺跡第１次調査発掘調査概要報告書』相武考古学研究所
4　大坪宜雄ほか『神奈川県海老名市 国分尼寺北方遺跡－第７次・第８次調査－』国分尼寺北方遺跡調査団
5　伊東秀吉ほか『海老名市望地遺跡－第４次調査　国分尼寺北方遺跡－第12次調査－発掘調査報告書』海老名市遺跡調査会
6　香村紘一　1998『海老名市相模国分尼寺北方遺跡　第14次調査』国分尼寺北方遺跡第14次調査団
7　高杉博章1998『神奈川県海老名市国分尼寺北方遺跡－第16次調査－』海老名市№35遺跡調査団
8　河野喜映　1998『かながわ考古学財団調査報告61国分尼寺北方遺跡－第17・18次調査－』財団法人かながわ考古学財団
9　北原實徳　1999『神奈川県海老名市国分尼寺北方遺跡－第20次調査－』国分尼寺北方遺跡第20次調査団
10　三ツ橋勝　2000『神奈川県海老名市国分尼寺北方遺跡・第22次発掘調査報告書』海老名市№35遺跡発掘調査団
11　相川薫　2000『神奈川県海老名市国分尼寺北方遺跡－第23次調査－発掘調査報告書』国分尼寺北方遺跡調査団
12　香村紘一　2006『神奈川県海老名市国分尼寺北方遺跡第19次調査第24次調査』相模原考古学研究会
13　秋山重美ほか　2002『神奈川県海老名市国分尼寺北方遺跡第25次調査発掘調査報告書』玉川文化財研究所
14　渡辺務・吉岡秀範　2007『神奈川県海老名市　国分尼寺北方遺跡－第27･28次調査－』日本窯業史研究所
15　千田利明　2007『神奈川県海老名市国分尼寺北方遺跡第29次調査』有限会社ブラフマン
16　千田利明　2007『神奈川県海老名市国分尼寺北方遺跡第30次調査』有限会社ブラフマン
17　千田利明　2007『神奈川県海老名市国分尼寺北方遺跡第31次調査』有限会社ブラフマン
18　千田利明　2008『神奈川県海老名市国分尼寺北方遺跡第33次調査』有限会社ブラフマン
19　千田利明　2009『神奈川県海老名市国分尼寺北方遺跡第36次発掘調査報告書』有限会社ブラフマン
20　柳川清彦ほか　2012『神奈川県海老名市国分尼寺北方遺跡発掘調査報告書－第37次調査－』株式会社アーク・フィールドワークシステム
21　小林克利ほか　2012『神奈川県海老名市　国分尼寺北方遺跡（第38次調査）』有限会社吾妻考古学研究所
22　千田利明　2012『神奈川県海老名市国分尼寺北方遺跡第42次発掘調査報告書』有限会社ブラフマン
23　千田利明　2013『神奈川県海老名市国分尼寺北方遺跡第46次発掘調査報告書』有限会社ブラフマン
24　横山太郎　2017『神奈川県海老名市　国分尼寺北方遺跡第47次調査－発掘調査報告書－』有限会社吾妻考古学研究所
25　横山太郎　2019『神奈川県海老名市　国分尼寺北方遺跡第50次調査－発掘調査報告書－』有限会社吾妻考古学研究所
26　鈴木裕子ほか　2017『海老名市国分尼寺北方遺跡第51次調査』㈱イビソク神奈川営業所、海老名市
27　田村良照　2022『海老名市国分尼寺北方遺跡第54次調査』有限会社相模考古学研究所
28　神奈川県教育委員会　1992『神奈川県埋蔵文化財調査報告34』
29　神奈川県教育委員会　1993『神奈川県埋蔵文化財調査報告35』
30　神奈川県教育委員会　1994『神奈川県埋蔵文化財調査報告36』
31　神奈川県教育委員会　1995『神奈川県埋蔵文化財調査報告37』
32　神奈川県教育委員会　1996『神奈川県埋蔵文化財調査報告38』
33　神奈川県教育委員会　1997『神奈川県埋蔵文化財調査報告39』
34　神奈川県教育委員会　1998『神奈川県埋蔵文化財調査報告40』
35　神奈川県教育委員会　1999『神奈川県埋蔵文化財調査報告41』
36　神奈川県教育委員会　2000『神奈川県埋蔵文化財調査報告43』
37　神奈川県教育委員会　2007『神奈川県埋蔵文化財調査報告51』
38　神奈川県教育委員会　2009『神奈川県埋蔵文化財調査報告54』
39　神奈川県教育委員会　2010『神奈川県埋蔵文化財調査報告55』
40　神奈川県教育委員会　2014『神奈川県埋蔵文化財調査報告59』
41　神奈川県教育委員会　2016『神奈川県埋蔵文化財調査報告61』
42　神奈川県教育委員会　2017『神奈川県埋蔵文化財調査報告62』
43　神奈川県教育委員会　2019『神奈川県埋蔵文化財調査報告64』
44　神奈川県教育委員会　2020『神奈川県埋蔵文化財調査報告65』
45　神奈川県教育委員会　2021『神奈川県埋蔵文化財調査報告66』
46　神奈川県教育委員会　2022『神奈川県埋蔵文化財調査報告67』

≪その他≫

1　阿部友寿・井関文明ほか　2009　『中野桜野遺跡』かながわ考古学財団調査報告231
（公財）かながわ考古学財団
2　池田治・宮井香ほか2014　『河原口坊中遺跡第１次調査』かながわ考古学財団調査報告307
（公財）かながわ考古学財団
3　伊丹徹・大島慎一ほか　2001　『シンポジウム弥生後期のヒトの移動～相模湾から広がる世界～資料集』西相模考古学研究会小田原シンポ準備会
4　伊東秀吉ほか　1994　『本郷中谷津遺跡埋蔵文化財調査報告書　－第９次調査－』
海老名市　本郷中谷津遺跡調査団
5　伊東秀吉・合田芳正ほか　1995　『海老名本郷（Ｘ）』　富士ゼロックス株式会社　本郷遺跡調査団
6　江藤　昭・吉田寿ほか　1989　『本郷中谷津遺跡』　本郷中谷津遺跡調査団
7　海老名市　1998　『海老名市史１資料編　原始・古代』
8　海老名市　2003　『海老名市史６通史編原始・古代』
9　押方みはる　1997　『瓢箪塚古墳－上浜田古墳群第７号墳－発掘調査報告書』　海老名市教育委員会
10　押方みはる・杉山和徳ほか　2017　『上浜田古墳群第２号墳発掘調査報告書』　海老名市教育委員会
11　押方みはる・山口正憲ほか　2002『秋葉山古墳群第１・２・３号墳発掘調査報告書第５～９次調査』
海老名市教育委員会
12　加藤久美ほか　2014　『河原口坊中遺跡第１次調査』かながわ考古学財団調査報告304
（公財）かながわ考古学財団
13　今野まりこ・押方みはるほか　2020　『逆川跡、国分宿遺跡（相模国分寺関連遺跡　第12次調査）発掘調査報告書』　海老名市教育委員会
14　齊藤真一・高橋香ほか　2011　『社家宇治山遺跡』かながわ考古学財団調査報告264
（公財）かながわ考古学財団
15　堺　雅仁編　1991　『本郷池端中谷津遺跡』　本郷池端中谷津遺跡第７次・８次調査団
16　須田　誠・滝澤　亮ほか　1995『相模国分寺関連遺跡３　－相模国分寺寺域範囲確認調査－』
海老名市教育委員会
17　須田誠･向原崇英　2012　『史跡相模国分寺跡』　史跡整備に伴う発掘調査報告書第1分冊（遺構編）
海老名市・海老名市教育委員会
18　滝澤　亮ほか　1993　『神奈川県海老名市本郷中谷津遺跡－第８次調査－』本郷中谷津遺跡調査団
19　滝澤亮・林原利明ほか 1990『相模国分寺関連遺跡１－尼寺跡の調査（1989～1990年度）－』
海老名市教育委員会
20　滝澤亮・林原利明ほか 1990『相模国分寺関連遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ－相模国分寺跡（推定中門・金堂跡）の調査－』　海老名市教育委員会
21　滝澤　亮・林原利明ほか　1990　『相模国分寺関連遺跡２－僧寺１次・２次調査－』
海老名市教育委員会・相模国分寺遺跡調査会
22　滝澤亮・渡井英誉ほか　1992　『相模国分寺関連遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ』－相模国分尼寺跡（推定講堂・中門・経蔵跡）の調査－』　海老名市教育委員会
23　立花実　2002　「相模地域　第Ⅴ様式」『弥生時代土器の様式と編年　東海編』木耳社
24　贄元洋2000『須恵器生産の出現から消滅－猿投窯･湖西窯編年の再構築－』第1回東海土器研究会資料
25　西相模考古学研究会・伊丹徹・立花実　2002　『弥生時代のヒトの移動～相模湾から考える～』
考古学リーダー１　六一書房
26　西相模考古学研究会・西川修一・伊丹徹ほか　2014　『久ケ原・弥生町期の現在－相模湾／東京湾の弥生後期の様相－』西相模考古学研究会
27　西相模考古学研究会・西川修一・古屋紀之　2015　『列島東部における弥生後期の変革　久ヶ原・弥生町期の現在と未来』考古学リーダー24　六一書房
28　日野一郎・渡辺　勲ほか　1992　『相模国分寺』　相模国分寺遺跡調査団
29　吉田政行・依田良一ほか　2009　『杉久保内藤原遺跡・杉久保内藤原横穴墓群・杉久保釜坂遺跡』
かながわ考古学財団

写　真　図　版

図版１
（第49次調査）

１．Ⅰ区１号溝、１号土坑、ピット完掘状況（西から）

２．Ⅰ区１号溝遺物出土状況（西から）

３．Ⅰ区１号土坑調査状況（南から）

４．Ⅱ区調査状況（東から）

図版２
（第49次調査）

１．Ⅲ区１号竪穴建物跡調査状況（北から）

２．１号竪穴建物跡炭化物出土状況（東から）

３．１号竪穴建物跡遺物出土状況（北から）

４．Ⅳ区２号竪穴建物跡、11～14号ピット調査状況（東から）

５．Ⅳ区２号竪穴建物跡土層堆積状況（南から）

６．Ⅳ区11号ピット調査状況（南から）

図版３
（第49次調査）

1

2

3

2 号竪穴建物跡

4

1 号溝

5

14 号ピット

1

3

4

2

5

6

7

8

9

10

11

1 号竪穴建物跡

12

12 号ピット

13

14

遺構外

第49次調査出土土器

図版４
（第49・58次調査）

１．第49次調査出土石器

２．第58次地点試掘調査No.１試掘坑（南から）

４．第58次地点試掘調査出土遺物
（左4点No.１試掘坑、右6点No.２試掘坑）

３．第58次地点試掘調査No.２試掘坑（北から）

図版５
（第58次調査）

１．１号竪穴住居跡調査状況（北から）

２．１号竪穴住居跡遺物出土状況

３．１号竪穴住居跡土層堆積状況（北から）

４．２号竪穴住居跡調査状況（北から）

５．２号竪穴住居跡掘り方調査状況（北から）

図版６
（第58次調査）

１．２号竪穴住居跡遺物出土状況（北から）

２．２号竪穴住居跡遺物取り上げ状況（東から）

３．Ⅱ区全景写真撮影状況

４．２号竪穴住居跡遺物出土状況（東から）

図版７
（第58次調査）

1

１号竪穴住居跡

2

3

4

5

6

２号竪穴住居跡

第58次調査出土遺物

報　告　書　抄　録

ふりがな	こくぶあまでらほっぽういせきはっくつちょうさほうこくしょ－だい49じ・58じちょうさ－
書名	国分尼寺北方遺跡発掘調査報告書－第49・58次調査－
編著者名	押方みはる、和田山千暁
編集機関	海老名市教育委員会
所在地	〒243-0422　神奈川県海老名市中新田377番地　TEL046-235-4925
発行年月日	2023年3月24日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
国分尼寺北方遺跡 第49次調査	神奈川県 海老名市 国分北 一丁目2977番3	14215	35	35° 27′ 46″	139° 23′ 43″	20140702～ 20140709	34.5	個人専用住宅
国分尼寺北方遺跡 第58次調査	神奈川県 海老名市 上今泉 三丁目1182番27	14215	35	35° 28′ 15″	139° 23′ 48″	20210423～ 20210526	22.57	個人専用住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
国分尼寺北方遺跡 第49次調査	集落跡	古墳～ 平安時代	奈良～平安時代：竪穴建物跡１、溝1、土坑1、ピット12 古墳時代：竪穴建物跡１、ピット２	土師器、須恵器、弥生～古墳時代土器、石器	
国分尼寺北方遺跡 第58次調査	集落跡	弥生時代	弥生時代：竪穴住居跡2	弥生～古墳時代土器、石器、陶磁器（近世）	

要約	第49次調査では、奈良平安時代、古墳時代中期後半から後期初頭の集落の広がりが確認された。特に古墳時代中期後葉から後期初頭とみられる竪穴建物跡の一部を確認し、須恵器高坏蓋や軽石製の石器が出土した。相模川中流域で当該時期の集落の確認は少なく、当該時期の状況を知る上での事例となった。 第58次調査では弥生時代後期末の竪穴住居跡の一部が確認された。第58次調査地点周辺においては弥生時代中期後半から古墳時代初頭にかけての住居跡が複数確認されており、相模川流域の低地を望む台地の縁辺部に弥生時代中期後半以降断続的に集落が営まれたことがわかってきた。

・文化財保護、教育普及、学術研究を目的とする場合は、著作権者の承諾なくこの報告書の一部を複製して利用できます。なお、利用にあたっては出展を明記してください。
・この報告書に係る記録図面（写真類を含む）は、海老名市教育委員会で保管していますので、利用する場合は連絡の上、必要な手続きをとってください。

神奈川県海老名市

国分尼寺北方遺跡発掘調査報告書－第49次・58次調査－

発行日　令和５年３月24日

編　集　海老名市教育委員会

発　行　海老名市教育委員会教育部教育総務課文化財係
神奈川県海老名市中新田377番地　TEL046-235-4925

印　刷　松代印刷株式会社